

## 近世における備前児島の製塩業

—— 児島郡味野村から見た一断面 ——

落 合 功

### はじめに

本論は近世における備前国児島郡の製塩業について児島郡味野村の塩浜所持の動向を中心に明らかにする。児島郡味野村は田畑 40 町歩前後で、降雨量が少なく、溜池が多かった。「正保郷帳」では 500 石程度であったが、「天保郷帳」では 723 石程度にまで増やしており、新田開発が進んだことがうかがえる。備前国児島郡に視野を拡げても同様な傾向であり、漁業が盛んな地域であった（ただし味野村では漁業は行われていない）。また、製塩業だけでなく、近世後期には小倉織が盛んとなり、嘉永 2 年（1849）には岡山藩の藩専売の対象商品になっている<sup>1)</sup>。

近代には味野紡績所など企業勃興が行われた。その基盤は当地の名望家である野崎家によってなされており、「野崎家を持つ力づよさ 味野は恵まれた町」といわれるようになっている<sup>2)</sup>。大正 13 年（1924）の調査によれば、野崎武吉郎の田畑所有面積は 559 町 9 歩（田 527 町歩、畑 32 町歩）である。次位の大原孫三郎が 323 町歩程度であり、県下最大の地主であった<sup>3)</sup>。この野崎家の資産形成については、今後明らかにすべき課題だが、これまでの『野崎家の研究』で明らかな通り、近世後期に開発された塩業経営がその基礎となっていることは間違いないだろう<sup>4)</sup>。

近世前期から備前国の各所に塩浜が存在していたが、幅広く塩田開発が推進されるのは、文政 11 年（1828）に野崎浜が開発されてからのことである。元来、昆陽野武左衛門として小倉足袋の製造・販売を営んでいた武左衛門は、経

営に限界を感じ、後妻まちの伯父にあたり天城村で大庄屋格を勤めていた中島富次郎に相談したところ、塩業経営を勧められ、味野村、赤崎村の沖合を開発した（天保2年・1831年、15町6反歩）。武左衛門は、その後も日比亀浜（天保2年・1831年、3町4反歩）や東野崎浜（南浜、嘉永4年・1851年、20町3反）、久々井浜（万延元・1860年、2町3反）など備前国沿岸各地に塩田開発を行っていく。野崎家の開発経緯については、別稿で明らかにするとして、野崎家の塩田所有面積は明治27年（1894）になると、181町4反歩におよび、塩田王と呼ばれるに至る。

他方、近世後期において、製塩業が当時有望な産業であったか否かは議論が必要である。近世前期以来、瀬戸内各地には多くの有力製塩地が開発されてきており、18世紀中ごろにはすでに全国市場において製塩量は飽和状態になっていた。実際、18世紀前半ごろから先行した瀬戸内各地の有力塩田では経営の見直しがなされている。その軋轢が竹原塩田（安芸国）では浜子の賃銀値上げを求める騒動となって表面化し、瀬戸内各地の塩田では薪炭焼きから石炭焼きへの転換が進められていた。さらに、塩田作業を一定期間休業する休浜法が推進されていく。この休浜法は、宝暦13年（1763）に安芸国生口浜三原屋貞右衛門によって提唱され、広島藩領内の芸備塩田だけでなく周防国、長門国の塩浜や松永浜（備後国）、波止浜（伊予国）などで理解を得ることとなるが、結局、数年でうまくいかなくなっている。その後、周防国三田尻浜の田中藤六によって明和8年（1771）に再び提唱されると瀬戸内各地に拡がっていく。赤穂浜が参加するのは文化9年（1812）のことである<sup>5)</sup>。休浜法に賛同する塩浜が多いという背景には、それぞれの事情がありつつも、従来のような経営では難しいことを示している。

野崎浜の開発について注目したいのは、こうした塩業界全体としての停滞期に巨大な塩田開発が行われたということである。こうした塩田開発は、備前国野崎浜だけではなく、その直前の文政12年（1829）に讃岐国坂出塩田でも久米栄左衛門によって塩田開発が行われている<sup>6)</sup>。畿内に近い坂出・児島での塩田開発は、他所の塩田に多大な影響を与えたと考えられる。一般的には後発的

な塩田開発の方が、生産力の有利性を指摘できるが<sup>7)</sup>、必ずしもそれが実証されているわけではない。むしろ、百姓浜の性格を具体的に明らかにすべきだろう。この点に留意しながら、本論では、近世後期の野崎浜の塩田開発について考えたい。

これまで野崎浜の開発事情については『野崎家の研究』において詳細に明らかにされている。本書は野崎浜のみならず、備前国全般の塩業を明らかにしつつ、近世後期の野崎浜の塩田開発から塩専売制実施後までを明らかにした古典的名著である。もちろん、個々の内容については再検討の必要がある。本論では、その前段階として、近世後期の地域経済に与えた影響（あるいは影響が無かったのか）と野崎家（武左衛門）の動向について、塩田構造から明らかにし、その一端を明らかにしていきたい。

なお、本論で扱う史料は岡山大学図書館所蔵荻野家文書である<sup>8)</sup>。荻野家は、代々味野村名主を務めた家であり、また、野崎浜を開発した武左衛門と親戚の関係である。以上の点を踏まえつつ紹介していきたい。

## 一、近世前中期における児島郡の塩田

### 1、児島郡内の塩田

近世前期より備前国児島郡各地には塩浜が存在していた。その様子を『備陽記』<sup>9)</sup>『吉備温故秘録』<sup>10)</sup>と『撮要録』<sup>11)</sup>、そして明治12年(1879)の「岡山県統計書」<sup>12)</sup>から抄録したものが【表1】である。『備陽記』は享保6年(1721)に作成されたとされ、『吉備温故秘録』は寛政年間に編纂されたもので、『撮要録(前編)』は文政期に編纂されたものである。よって、近世中期の児島郡の製塩業について明らかになるだろう。塩田面積も若干の変化はあるがおおよそは変わらない。特に『備陽記』と『吉備温故秘録』は村内の家数や人数が変わらないことも多く、同じ調査結果を転記したのか、『備陽記』を参照したものと考えられる。いずれにせよ、これら三史料を通じて児島郡内の概要を理解することができるだろう。同表で明らかなおお、児島郡の中でも瀬戸内海に面する村々では製塩業が営まれていたことがわかる。【図1】の「児島郡略図」

【表1】 児島郡野村々の概要と塩浜

	『備陽記』から見た村々					『吉備温故秘録』から			
	家数	男女	田畑面積	塩浜	石高 (石)	家数	男女	船数	田畑面積
小串村	430	2,204	61町1反8畝27歩半	4町3反8畝4歩	500.610	430	2,204	104	61町1反8畝27歩半
宮浦村	165	963	32町3反8畝28歩半		342.190	165	963	53	32町3反8畝28歩半
阿津村	258	1,264	31町8反2畝20歩半		339.600	258	1,264	90	31町8反2畝20歩半
番田村	123	831	31町6反6畝13歩	3町4反9畝2歩半	329.920			10	31町6反6畝13歩
北方村	98	595	27町4反5畝26歩半	3反0畝17歩半	880.210	98	595	9	27町4反5畝26歩半
下山坂村	69	511	21町2反8畝12歩	9反4畝24歩半	297.100	69	511	3	21町2反8畝12歩
胸上村	202	1,331	37町7反2畝27歩半	6町4反0畝22歩半	354.180	202	1,331	88	37町7反2畝27歩半
東田井地村	56	302	21町6反3畝 6歩半	1町2反9畝25歩半	266.650	56	302	4	21町6反3畝 6歩半
上山坂村	59	407	19町1反1畝 8歩半	1町0反7畝6歩	272.580	59	407	0	19町1反1畝 8歩半
梶岡村	77	575	19町4反4畝25歩半		267.700	77	575	9	19町4反4畝25歩半
西田井地村	91	625	31町0反0畝24歩	3町6反9畝9歩半	372.240	91	625	6	31町0反0畝24歩
山田村	152	957	55町3反4畝 6歩		736.430	152	957	5	55町3反4畝 6歩
東野崎村									
沼村	19	135	7町2反0畝17歩	2反7畝12歩	79.490	19	135	6	7町2反0畝17歩
後閑村	33	242	10町8反2畝22歩	1反9畝19歩	159.670	33	242	1	10町8反2畝22歩
波知村	59	445	32町2反7畝 2歩		495.750	59	445	0	32町2反7畝 2歩
八浜村	349	2,175	39町5反1畝 9歩半		367.380	349	2,175	0	39町5反1畝 9歩半
池迫村	22	154	4町1反7畝 8歩半		56.620	22	154	0	4町1反7畝 8歩半
広木村	11	79	10町5反9畝19歩		102.470	11	79	0	10町5反9畝19歩
大崎村	104	598	34町6反5畝16歩半		450.490	104	598	2	34町6反5畝16歩半
宇多見村	28	187	8町7反8畝24歩		103.320	28	187	2	8町7反8畝24歩
碁石村	23	117	5町9反4畝 6歩		99.080	23	117	10	5町9反4畝 6歩
郡村	313	1,907	54町9反8畝10歩		768.490	313	1,907	61	54町9反8畝10歩
北浦村	198	1,227	18町7反9畝 3歩		202.900	198	1,227	188	18町7反9畝 3歩
飽浦村	49	276	22町1反7畝23歩半		311.160	49	276	2	22町1反7畝23歩半
宇藤木村	23	56	4町4反5畝18歩		36.830	23	56	4	4町4反5畝18歩
用吉村	131	776	66町5反3畝26歩		563.320	131	776	7	66町5反3畝26歩
木目村	85	479	27町6反2畝16歩半		421.830	85	449	0	25町6反2畝16歩半
小島地村	62	390	25町7反1畝21歩		297.000				
広岡村	57	375	15町7反5畝28歩半		243.880	57	375	0	15町7反5畝28歩半
瀧村	83	459	30町4反9畝 6歩		535.870	83	459	0	30町4反9畝 6歩
長尾村	103	688	68町1反6畝 0歩		1,186.680	103	683	0	68町1反6畝 0歩

近世における備前児島の製塩業

見た村々			『撮要録』に掲載されている塩浜			明治12年 「岡山県統計表」
	塩浜	石高 (石)	初見	塩浜面積	備考	塩浜
	4町3反8畝4歩	500.610	宝永7年	9町余り	半分島へ（現在なし）。文化9年塩浜のうち1反4畝2歩浜業仕候者無。文化10年塩浜2反2畝5歩真水浮出荒浜。	
		342.190				
		339.600				
	3町4反9畝 2歩半	329.920	正徳4年	3町6反4畝15歩	寛文6年2反3畝12歩真水指出畑。寛文13年8畝2歩半同畑。8畝半歩為真水水抜溝二成永荒。3反1畝14歩半、真水指出元禄十六年当荒。	4町1反4畝15歩
	3反0畝17歩半	880.210	宝永6年	3反7畝17歩半	1反4畝16歩半荒	
	9反4畝24歩半	297.100	宝永6年	9反9畝 4歩	6畝28歩荒 9反2畝 6歩	
	6町4反0畝22歩半	354.180	宝永6年	6町4反0畝24歩半	1町1反8畝6歩半荒 5町2反2畝18歩	17町0反5畝 6歩
	2町2反9畝25歩半	266.650	宝永6年	1町3反2畝 2歩半	5畝19歩半荒、文化14年荒塩浜9畝29歩再発。 1町2反6畝13歩半	6畝12歩
	1町0反7畝 6歩	272.580	宝永6年	1町1反3畝6歩	7畝13歩半荒	
	1町4反9畝 5歩	267.700	宝永6年	1町4反7畝21歩半	1町 21歩半荒	6反1畝 9歩
	3町6反9畝 9歩半	372.240	享保4年	3町6反9畝 9歩半	享保4年3反3畝25歩畑。文化14年荒塩浜3反17歩再発。	6町2反2畝20歩
		736.430			文政5年荒浜1反8畝18歩畑に成。	4町6反6畝19歩
			天保2年		武左衛門新塩浜開発。	69町3反5畝 6歩
	2反7畝13歩	79.490	宝永6年	2反8畝 3歩	文化14年荒浜3畝15歩半畑発。	
	1反9畝19歩	159.670	宝永6年	3反5畝13歩半	1反0畝19歩荒畑。	3町3反5畝 6歩
		495.750				
		367.380				
		56.620				
		102.470				
		450.490				
		103.320				
		99.800				
		768.490				
		202.900				
		311.160				
		36.830				
		563.320				
		421.830				
		243.880				
		535.870				
		1,186.680				

青山經濟論集 第 74 卷 第 3 号

	『備陽記』から見た村々					『吉備温故秘録』から			
	家数	男女	田畑面積	塩浜	石高 (石)	家数	男女	船数	田畑面積
迫間村	93	642	48町5反7畝22歩		751.690	93	642		48町5反7畝22歩
槌ヶ原村	153	850	51町9反3畝 4歩半		651.810	153	877	4	51町9反3畝4歩半
田井村	201	1,426	72町1反6畝18歩半	4町1反3畝 1歩半	1,009.620	201	1,426	12	72町1反6畝18歩半
福浦	10	65	4町2反9畝 1歩	1町1反4畝 4歩半		10	65		4町2反9畝 1歩
福原新田	23	157	13町3反6畝24歩半	4反4畝27歩		23	157		13町3反6畝24歩半
大藪村						23	177		9町3反5畝11歩
宇野村	53	526	20町1反8畝21歩	1町3反7畝16歩半	266.860	113	526		20町1反8畝21歩
玉村	72	708	32町6反8畝15歩		398.500	72	708	10	32町6反8畝15歩
利生村	87	633	26町1反9畝21歩		443.920	87	633	53	26町1反9畝21歩
向日比村	22	221	3町3反1畝27歩		41.930	22	221	17	3町3反1畝27歩
和田村									
日比村	113	640	16町5反3畝25歩		261.000	113	640	26	16町5反3畝25歩
澁川村	35	225	13町4反5畝19歩		213.450	35	225	9	13町4反5畝19歩
引網村	47	345	13町4反4畝21歩		183.100	47	345	8	13町4反4畝20歩
田ノ口村	143	1,060	43町8反4畝29歩半	6反1畝29歩	710.400	143	1,060	7	43町8反4畝29歩半
下村	121	838	51町1反0畝 2歩半		836.460	121	831	5	51町1反0畝 2歩半
味野村	119	885	39町6反9畝 6歩	3町2反8畝28歩	494.930	119	885	12	39町6反9畝 6歩
赤崎村	124	1,006	38町5反8畝 3歩	6町3反8畝24歩	453.310	124	1,006	38	38町8反8畝 8歩
大畠村	142	1,100	6町1反8畝25歩		80.250	143	1,100		6町1反8畝25歩
田ノ浦村	116	662	5町8反7畝28歩半		74.560	116	666	43	5町8反7畝28歩半
吹上村	81	545	6町1反5畝24歩		105.260	81	545	14	6町1反5畝24歩
下津井村	263	1,965	14町4反4畝 8歩半		184.070	263	1,965	100	14町4反4畝 8歩半
釜島	1	8	1町8反0畝 0歩			1	8		1町8反0畝 0歩
松島	2	9	1反2畝 7歩半			2	9		1反2畝 7歩半
菰池村	35	248	8町9反0畝15歩		187.330	35	248		8町9反0畝15歩
上村	93	700	37町9反1畝21歩半		643.800	93	700		37町9反1畝21歩半
稗田村	106	873	50町9反6畝20歩半		731.030	106	873		50町9反6畝20歩半

近世における備前児島の製塩業

見た村々		『撮要録』に掲載されている塩浜				明治12年 「岡山県統計表」
	塩浜	石高 (石)	初見	塩浜面積	備考	塩浜
		751.690				
		651.810				
	4町1反3畝 1歩半	1,900.640	宝永6年	4町2反5畝 7歩半	寛保ごろ塩浜13町5反開発。延享ごろ塩浜9町3反開発。寛延元年新塩浜2反6畝1歩開発。福原塩浜宝永6年4反5畝27歩開発。天保7年開発同村善兵衛・嘉兵衛他21名引請3町8反7畝7歩。	51町2反7畝18歩
	1町1反4畝 4歩半		宝永6年	1町2反 7歩半	6畝3歩荒。文化11年福浦新塩浜8反2畝22歩開発。	
	4反4畝27歩					
	2反0畝 0歩	122.750	宝永6年	2反0畝 0歩	享保10年2反荒浜畑作発。文化14年荒畝、2反4畝8歩半再発。	
	1町3反7畝16歩半	266.860	宝永6年	2町0反0畝 6歩		19町7反3畝28歩
		398.500	宝永6年	1町9反4畝27歩		10町0反4畝22歩
		443.920	天保3年	7反3畝 7歩半	9月、日比村湊東干潟大庄屋樋ケ原村太兵衛引請新開塩浜。	
		41.930	天保3年	3反3畝18歩	9月、日比村湊東干潟大庄屋樋ケ原村太兵衛引請新開塩浜。	
						10町7反6畝15歩
		261.000	天保3年	2町3反5畝29歩半	9月、日比村湊東干潟大庄屋樋ケ原村太兵衛引請新開塩浜。	15町1反2畝 9歩
		213.450				
		183.100	天保2年	6反1畝 8歩	4月、引網村庄蔵他20人共同村前海面新開塩浜。	2町1反5畝 6歩
	6反1畝29歩	714.400	宝永6年	6反1畝22歩	7畝8歩荒。	7町1反3畝 0歩
		836.460	文政13年	5町4反7畝29歩	12月開発積(予定)。天保3年9月名主順平、文政12年5月海面10町歩新開築立塩浜、天保3年9月検地3町3反5畝12歩半。	34町0反5畝 0歩
	3町2反8畝28歩	494.930	宝永6年	5町1反8畝29歩	3畝3歩、文政12年4月開発積(予定)10町1反12歩半。	43町5反5畝24歩
	6町3反8畝24歩	453.310	貞享元年	6町9反6畝18歩半	6反8畝24歩、文政12年4月開発積(予定)5町2反8畝11歩。	37町7反4畝22歩
		80.250				
		74.560				
		105.260				
		184.070	寛政4年	4反3畝12歩	真水浮出候付、寛政11年畑発。	
		187.330				
		643.800				
		731.030				

青山經濟論集 第74卷 第3号

	『備陽記』から見た村々					『吉備温故秘録』から			
	家数	男女	田畑面積	塩浜	石高 (石)	家数	男女	船数	田畑面積
柳田村	75	540	38町3反3畝15歩		557.420	75	540		38町3反3畝15歩
小川村	109	972	40町8反4畝 7歩	3反6畝 0歩	643.920	109	972	4	40町8反4畝 7歩
塩生村	79	694	24町3反4畝 8歩半		331.280	79	694	14	24町3反4畝 8歩半
宇野津村	31	261	7町9反1畝15歩半		88.760	31	261		7町9反1畝15歩半
新田									2町0反2畝14歩
通生村	69	660	26町8反3畝20歩半		349.940	69	660	23	26町8反3畝20歩半
呼松村	87	692	10町3反3畝21歩		91.930	87	692	39	10町3反3畝21歩
広江村	77	691	27町8反0畝21歩半		93.700	77	691	7	27町8反0畝21歩半
福江村	51	406	23町5反0畝 1歩		268.050	51	406		23町5反0畝 1歩
福田村	71	483	29町5反2畝28歩半		292.720	71	483		39町5反2畝28歩半
福田新田									
浦田村	75	501	24町9反5畝19歩半		317.370	75	501		24町9反5畝19歩半
浦益	32	248	6町7反0畝19歩			32	248		6町7反0畝19歩
黒石	48	305	27町6反0畝14歩半			48	305		27町6反0畝14歩半
黒田新田	7	47	6町8反2畝29歩			7	47		6町8反2畝29歩
八軒屋	32	210	27町4反2畝21歩半		418.297	32	210		27町4反2畝21歩半
藤戸村	98	551	38町3反6畝16歩		377.580	98	551	5	38町3反6畝16歩
粒江村	85	584	37町0反5畝 0歩		516.200	85	584		37町0反5畝 0歩
天城村	115	733	35町2反0畝17歩		295.340	115	733		25町2反0畝17歩
天城町	142	726				142	736		
植松村	66	381	19町7反6畝29歩		262.770	66	382	5	19町7反6畝29歩
川張村	54	337	19町1反4畝19歩半		142.120	54	337		19町1反4畝19歩半
彦崎村	142	803	50町9反1畝 2歩半		648.450	142	802	28	50町9反1畝 2歩半
片岡村	63	364	23町2反5畝 5歩半		253.450	63	364	5	23町2反5畝 5歩半
宗津村	37	208	11町1反4畝 4歩半		86.740	37	208	2	12町4反4畝 4歩半
迫川村	80	506	23町1反0畝19歩		314.310	80	516	21	33町1反1畝19歩
奥迫川村	55	318	12町0反3畝14歩		120.100	55	318		12町0反3畝14歩
山村			28町3反0畝12歩		577.580	99	608		28町3反0畝12歩
白尾	56	440	16町2反6畝15歩半			56	440		16町2反6畝15歩半
尾原村	102	698	24町6反0畝11歩半		325.990	102	698		24町6反0畝11歩半
木見村	131	774	48町1反3畝12歩		681.910	131	774		48町1反3畝12歩
曾原村	66	377	20町3反6畝19歩		277.470	66	377		20町3反6畝19歩
串田村	41	279	24町5反7畝27歩		348.990	41	279		24町5反7畝27歩
林村	145	892	77町9反6畝 4歩		1,180.390	145	892		77町9反6畝 4歩

『備陽記』（1965年、日本文教出版株式会社）

『吉備群書集成』（1970年、歴史図書社）

『撮要録』（1965年、日本文教出版株式会社）

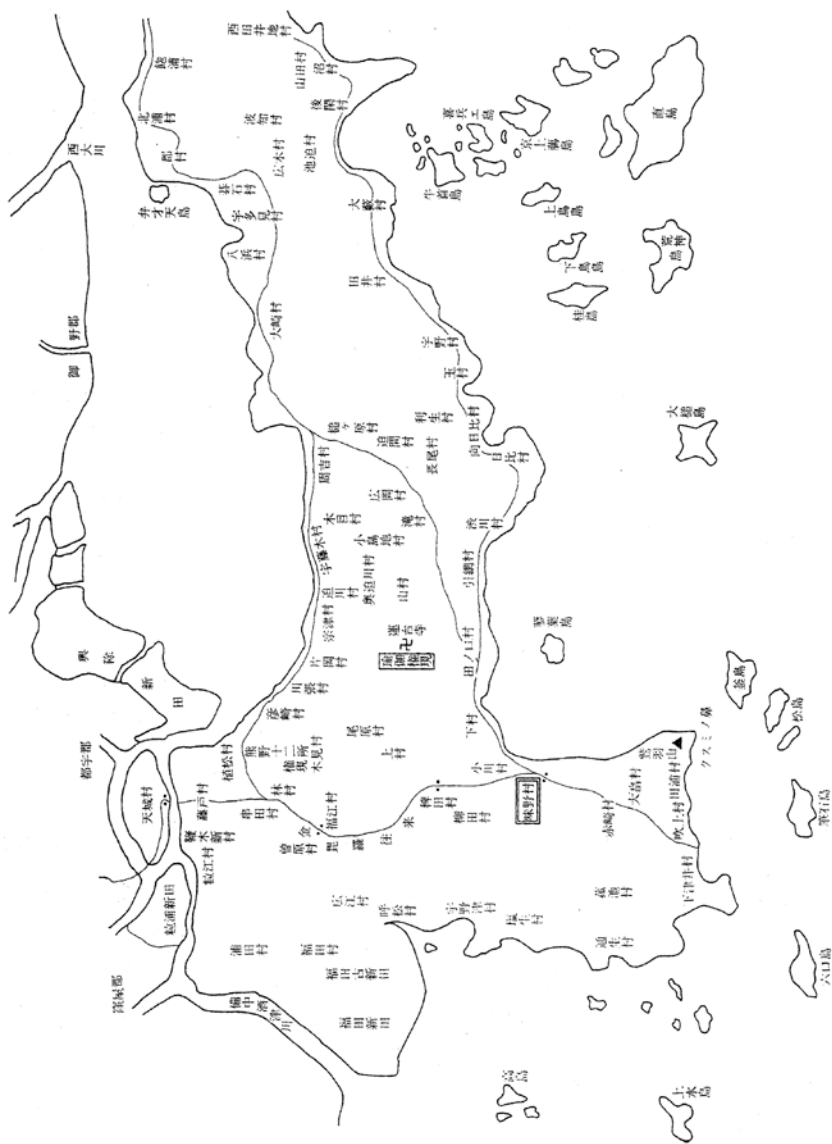
明治12年「岡山県統計表」



近世における備前児島の製塩業

見た村々		『撮要録』に掲載されている塩浜				明治12年 「岡山県統計表」
	塩浜	石高 (石)	初見	塩浜面積	備考	塩浜
		557.440				
	3反6畝 0歩	643.920	天保3年	4町3反8畝15歩半	9月、村方12名願出開発。	20町7反7畝11歩
		331.280				
		88.760				
		349.940				
		91.930				
		93.700				
		268.500				
		292.720				
		1,317.230				
		317.370				
		418.297				
		377.580				
		516.200				
		296.340				
		262.770				
		142.120				
		648.450				
		253.450				
		86.740				
		314.310				
		420.100				
		577.580				
		325.990				
		681.910				
		277.470				
		348.990				
		1,180.390				

【図1】見島郡略図（文政元年備前国絵図により作成）



「荻野家文書解説」岡山大学附属図書館編『岡山大学所蔵 庶民史料目録 第3巻』（1974年）参照

を参照しよう。児島湾内には塩浜は存在しない。ただ、村々の塩田面積は田井村が30町歩弱、赤崎村、味野村、胸上村が5町歩、6町歩程度、他の塩田は1町歩程度と場所によって異なるがさほど広くはない。また、『撮要録』を参照すると、梶岡村塩浜では「塩浜畝数一町四反七畝二十一歩半、内一畝二十一歩荒」と、近世前期に塩田開発されたものの、一部が荒れ浜になることが多かった。また、小串村塩浜を参照すると「宝永七寅二月被仰出 小串村塩浜九町余之内半分畝に可申付候、免斗代塩浜同事に可申付候以後畠作不宜又塩浜に致候ハ、其時も免斗代同事可申付候」と、宝永期に塩浜と畑として開発したものの、畑としては生育できないことから塩浜にしている。しかし、文化9年(1812)、文化10年の項では「文化九申年 小串村塩浜畝之内一反四畝二歩之分浜業仕候者無之二付、免斗代其俣ニて畑発に成、但塩竈屋敷跡検地免斗代極、文化十酉年小串村塩浜畝二反二畝五歩真水浮出荒浜に畑成居申に付此度畑発」と、塩浜を生業とするものがないため、畑としたり、また真水が浮き出たため荒れ浜になっている。明治12年(1879)の「岡山県統計書」を参照すると、児島郡の中でも瀬戸内海に面した赤崎村から番田村にかけて各地の塩浜が拡大していることが明らかとなる。

## 2、近世前期の味野村の塩田

近世前期の味野村の製塩業を概観しておこう。享保6年(1721)に作成されたとされる『備陽記』を参照すると(【表1】にあり)、味野村の石高は494石9斗3升、田畑面積39町6反9畝6歩で、そのうち3町2反8畝28歩が塩浜であった。家数119軒、男女合わせて885名であった<sup>13)</sup>。それに先立つ寛文5年(1665)の「児島郡味野村田帳」と「児島郡味野村畠帳」を整理した【表2】を参照しよう<sup>14)</sup>。同表を参照すると田畑面積は35町7反3畝11歩半で、村高は490石5斗9升と、『備陽記』とほぼ同じことが判明する。また、寛文4年(1664)「児島郡味野村塩浜帳」を示した【表3】を参照すると<sup>15)</sup>、2町3反8畝17歩であり若干狭い。しかも、49筆ある中で、1筆当りの面積が1反歩を越すのは1筆のみである。ただし、寛文8年「児島郡味野村新開塩浜改

【表2】寛文5年（1665）味野村における田畠面積と石高

	面積	石高
上田	1町7反1畝29歩	34石3斗9升3合
中田	6町9反8畝24歩	125石7斗8升4合
下田	6町0反1畝18歩	90石2斗9升0合
下々田	4町6反6畝27歩	60石6斗9升7合
下々田	1町4反5畝 5歩	11石6斗1升3合
下々田	4反1畝 3歩半	2石0斗5升6合
合計	21町2反5畝26歩半	324石8斗3升3合
上畠	2町3反9畝10歩	35石9斗0升0合
中畠	3町7反1畝18歩	48石3斗0升8合
下畠	4町8反7畝15歩	53石6斗2升4合
下々畠	3町4反9畝 2歩	27石9斗2升5合
合計	14町4反7畝15歩	165石7斗5升7合

寛文5年「児島郡味野村田帳」

寛文5年「児島郡味野村畠帳」

いずれも岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

【表3】寛文4年 味野村塩浜1筆ごとの面積

	畝	歩		畝	歩		畝	歩
下	4	29	下		18	下	2	29
下	4	18	下	1	6	下	1	0
下	6	23	下	2	8	下	2	12
下	2	6	下	9	3	下	8	0
下	2	6	下	9	3	下	8	0
下	2	6	下	8	0	下	7	22
下	1	12	下	8	0	下	7	24
下		20	下	1	10	下	7	6
下	3	18	下	10	8	下	5	11
下	5	3	下	1	19	下	4	18
下	9	19	下	1	12	下	1	12
下	9	19	下	1	24	下	5	10
下	9	16	下		20	下	1	26
下	8	24	下	4	27	合計	2町3反8畝	17歩
下	8	18	下	4	0			
下	7	24	下	2	12			
下	7	0	下	3	15			
下	6	9	下	3	22			

寛文4年「古浜新浜改ル児島郡味野村塩浜帳」参照

岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

帳」を参照すると<sup>16)</sup>、塩浜が2反2畝5歩（田方5反4畝29歩、畠方1反6畝1歩）開発されている。さらに寛文9年の「塩浜新田開方改之帳」を参照すると塩浜は6反6畝20歩（他に新田は3反5畝26歩、畠開方は2反9畝27歩）開発され、寛文12年の「児島郡味野村新開新浜改帳」を参照しても下浜1畝16歩（他に田方5畝9歩、畠方4反2畝5歩）が開発されていることがわかる<sup>17)</sup>。少しずつでありながらも、開発が進んでいる様子がわかるだろう。

また、天和3年（1683）に塩浜開発された様子がわかる「児島郡味野村発開改帳」を参照しよう（【表4】<sup>18)</sup>）。同表を参照すると、塩浜2町4反7畝1歩の塩浜を清助が開発している。この時1筆相当の面積は5畝前後がほとんどであった。この史料によると、検地当時は全て清助の所持地であったが、その後、個々の土地は所持者が清助から譲渡されていることを記した付箋が貼付されている。一部無いものもあるが、それを参照すると分割細分化して所持者が記載されている。つまり、他地域のように塩浜が統廃合されるのではなく、むしろ逆に分割・細分化されているのである。

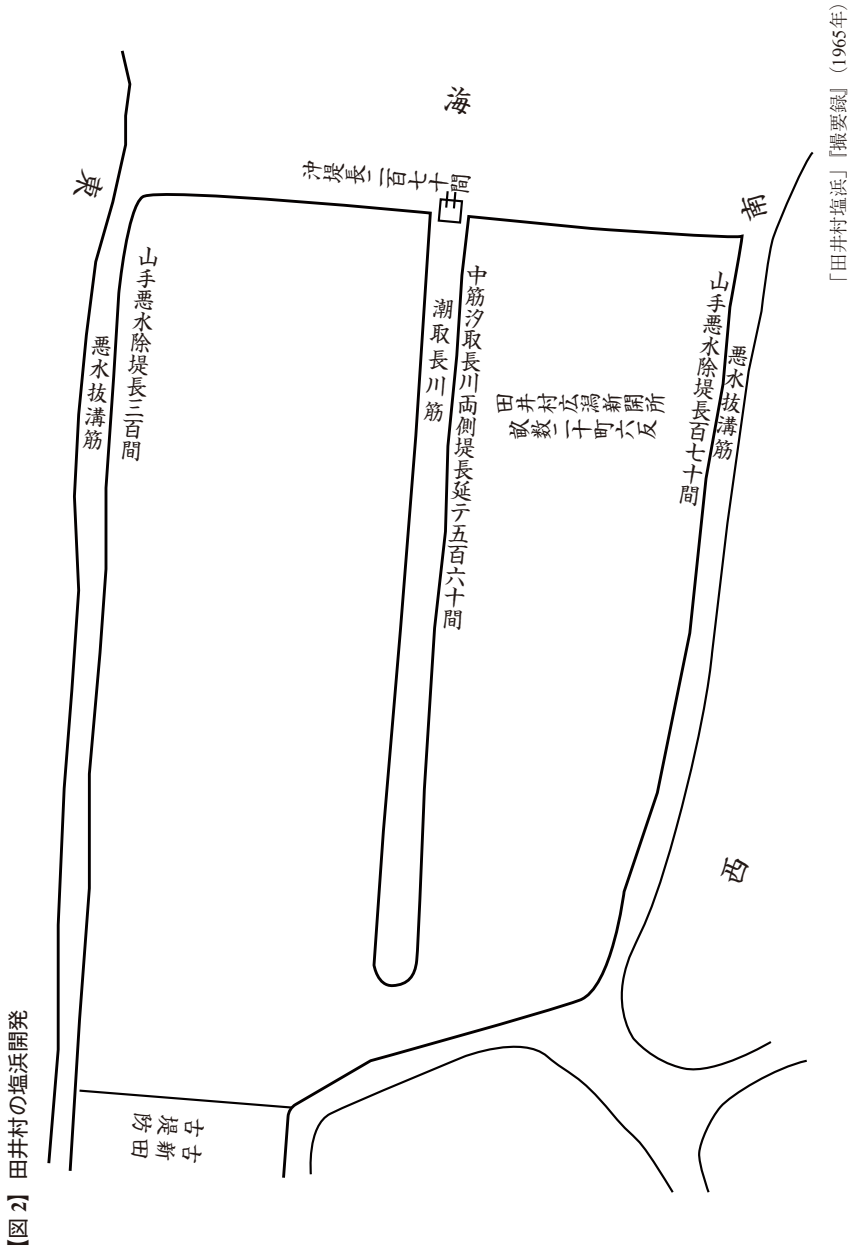
### 3、田井村の塩浜新開

田井村は干潟が広がっていたことから、近世前期に児島郡内で最大の塩浜が展開されている。宝永6年（1709）の塩浜面積は4町2反5畝7歩半だったが、寛保期に20町6反を新開地とし13町5反を塩浜として開発した<sup>19)</sup>。それを参照すると、残りの5町5反3畝が「釜屋溝台鉢共」であり、1町5反7畝が「用水悪水溝堤敷共」であった。釜屋は22軒存在したことがわかる。なお、塩浜13町5反として年貢米を135石と銀6貫655匁（塩浜釜屋敷夫役銀、釜屋運上銀）を納めている。さらに同様な新開地として14町6反（塩浜は9町3反、3町9反5畝が釜屋溝台鉢、1町3反7畝が用水悪水溝堤敷共）が開発されている。延享4年（1747）には、小規模な塩浜開発が行われている。同内容を参照すると、「田井村広潟と申所、余程之干潟故此処に畝数凡七八反計之塩浜、同村勘八郎自力ニ仕度并用水樋、悪水抜通共自力に仕度と願出候付、御用老江及御噂（ママ嘆カ）願之通」と、塩浜開発を進めている。そして、寛

【表4】天和3年（1863）の塩浜開発とその後の所持者移動

塩浜	面積	所持者	穴床敷	付箋記載	
塩浜	7畝	清助	1畝18歩	2畝	宝暦七年永荒
				3畝10歩	善三郎
				1歩半	小川村浅兵衛
塩浜	1反5畝10歩	清助	3畝16歩	6畝	宝暦七年永荒
				2畝16歩半	忠次郎
				2畝20歩半	惣三郎
				17歩	小川村浅兵衛
塩浜	1反6畝5歩	清助	3畝22歩	4畝24歩	市郎兵衛
				5畝10歩半	刈平
				2畝 8歩半	刈平
塩浜	1反6畝5歩	清助	3畝22歩	5畝10歩半	平四郎
				2畝20歩半	平四郎
				4畝12歩	喜八郎
塩浜	1反0畝15歩	清助	2畝13歩	3畝19歩	喜八郎
				1畝 8歩	吉右衛門
				2畝17歩	吉右衛門
				18歩	吉右衛門
塩浜	1反8畝20歩	清助	4畝 9歩	1反 21歩	友二郎
				2畝 2歩半	吉右衛門
				1反 17歩半	
塩浜	1反9畝20歩	清助	4畝16歩	5畝11歩	吉右衛門
				1畝 4歩	多吉
				1畝 3歩	源二郎
				7畝16歩	助五郎
塩浜	2反0畝10歩	清助	4畝21歩	2畝 2歩半	与五郎
				4畝	与五郎
				4歩	助五郎
				5畝半歩	又七
				4畝12歩	亀介
塩浜	2反0畝20歩	清助	4畝23歩	23歩半	辰介
				5畝10歩半	勝二郎
				5畝10歩半	善介
				2畝15歩	久五郎
				2畝20歩半	亀七
塩浜	2反0畝15歩	清助	4畝28歩	付箋なし	
塩浜	2反1畝 0歩	清助	4畝25歩	1反6畝 2歩	宇平二
				3歩	
塩浜	2反2畝 0歩	清助	5畝 2歩	付箋なし	
塩浜	1反7畝20歩	清助	4畝 3歩	付箋なし	
塩浜	1反7畝29歩半	清助	4畝 4歩半	付箋なし	
塩浜	3畝11歩半	清助	23歩半	付箋なし	
合計	2町4反7畝 1歩	清助	5反7畝 0歩半		

〔元禄三年 児島郡味野村発開改帳〕 岡山大学附属図書館所蔵児島家文書



延元年（1748）に新塩浜として2反6畝1歩が開発されている。

この田井村の新開で注目できる点として2つある。1つは、「釜屋溝台鉢」と、釜屋とともに「溝台鉢」が設置されていることである。これは、近世後期における「穴床敷」とは異なる記載である。「溝台鉢」と「穴床敷」はいずれも鹹水を採取する沼井の機能を果たすものとして理解でき、「穴床敷」は固定式なものとして理解できる。それに対し「溝台鉢」については、さらなる事例を検討する必要があるが、可動式と考えられる。もう1つは、これらにおいて、「用水」「悪水」溝が造られているという点である。『撮要録』には、寛保期に開発された田井村広瀉新開所（20町6反歩）の新開地が図で示されている。【図2】の「田井村の塩浜開発」を参照すると、海に面して500m弱の沖堤を設置し、その真ん中に樋を設置してある。その上で塩浜の真ん中を貫くように用水路がある。「瀬取長川筋」「中筋汐取長川両側堤長延テ五百六十間」との記載がある。つまり、海水導入口として塩浜の真ん中に1キロ近くの用水路が流れていることがわかる。また、塩浜の両側に「悪水抜溝筋」があり、それぞれ約550m、約670mの「山手悪水抜堤」が築造されている。このように一軒前はなしていないものの、近世中期ごろには児島郡でも干満を利用して海水を導入する入浜塩田が築造されていたことは明らかとなるだろう。なお、「穴床敷」の名前が史料で出てくるのは文化期ごろのことである。

#### 4、元文3年「児嶋郡味野村田畑高物成開方新々開共名寄指引算用帳」の検討

元文3年（1738）、味野村のこれまでの村高に合わせて新開地の石高を含め、村内の人々に負担を名寄で割り振られた史料が「児嶋郡味野村田畑高物成開方新々開共名寄指引算用帳」である<sup>20)</sup>。当時の石高を示したのが【表5】である。493石弱の元来の村高に加えて開発地などの石高などで算出した536石1斗4升4合が村高（田高316石7斗6升7合、畑高170石3升4合、塩浜高49石3斗4升3合）となる。それに、塩浜高28石5斗0升3合（1町9反半）を含めた45石8斗5升3合分（田畑塩浜合算で4町7反2畝22歩半）が開発されており、それが村高として加算されている。よって、物成としての負担高



近世における備前児島の製塩業

【表 5】 味野村における村高（元文3年）

		石高（石）	物成高（石）	
味野村高		494.930		A
又高		132.632		B
高（合計）		627.562		A+B
引高		91.418		C
残高		536.144	317.001	D=A+B-C=a+b+c+d+e
	田高	292.949	186.609	a
	田高	21.324	10.620	b
	田高	2.494	1.247	c
	畑高	170.034	92.669	d
	塩浜高	49.343	25.856	e
内	樋守、溝守給		2.914	f
	残物成		314.087	E=D-f
開方	高	44.014	21.819	F=g+h+i+j+k
	田高	3.029	1.515	g
	畑高	5.609	3.057	h
	畑高	4.686	1.874	i
	畑高	2.187	0.437	j
	塩浜高	28.503	14.936	k
新開	高	1.447	0.629	G
新々開方	高	0.392	0.164	H
	合計	45.853	22.612	I=F+G+H

元文3年「児嶋郡味野村田畑高物成開方新々開共名寄指引算用帳」参照  
岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

は339石6斗1升3合となる。

同史料には155名が記載されている。全貌を示したものが【表6-1】である。船運上を支払っているもので無高のものが2名いるが、おおよそ田畑のいずれかを所持している。

また、隣村の小川村（4名）、赤崎村（1名）、吹上村（1名）、柳田村（4名）から合計10名が入作として土地を所持している。それらを石高で序列化したのが【表6-2】である。最も高い石高を有しているのが樋右衛門で21石弱で10石以上は10名とあまり土地を集積している人はいない。また、塩浜所持との関係を調べると、塩浜だけを所持しているものはおらず、逆に3石以上所持している人のうち8割近くが塩浜を所持しているように、半農半塩であったことがわかる。塩浜の石高も一人一人それほど広くはなく、製塩業のみを専業と

【表 6-1】元文 3 年味野村個々人土地所持高

名前	所持高	塩浜	開塩浜	塩浜全体	船運上	名前	所持高	塩浜	開塩浜	塩浜全体	船運上
	石	石	石	石	匁		石	石	石	石	匁
弥九郎	0.018					十三郎	1.374				
多次郎	0.040					猶右衛門	1.374				
弥五郎	0.071					小川 半七郎	1.421				
文四郎	0.088					甚五郎	1.438				
文作	0.095					吉之丞	1.486				
小川 与左衛門	0.133					六右衛門	1.535				13.14
徳三郎	0.134					加兵衛	1.579	0.340		0.340	
柳田 長三郎	0.157					吉郎次	1.719				
柳田 三平	0.173					勘六郎	1.733				
善吉郎	0.177					松右衛門	1.793				
柳田 弥平次	0.208					八之介	1.836				
権介	0.244					庄右衛門	1.866				
伝左衛門	0.260					善次郎	1.977				
助四郎	0.272					与平次	2.004				
久蔵	0.308					与市郎	2.035				
藤四郎	0.341					次吉郎	2.227				
兵介	0.378					浅右衛門	2.369				
伝六郎	0.405					又七郎	2.372				
文介	0.485					利右衛門	2.387				
作介	0.540					柳田 市右衛門	2.410	2.410		2.410	
孫右衛門	0.542					儀平次	2.496				
役次郎	0.575					善太夫	2.549				
源七	0.577					長三郎	2.563				
小川 仁兵衛	0.588					長作	2.582				
小川 善七郎	0.640					加次郎	2.633				
弥右衛門	0.658					三郎右衛門	2.664				
喜六郎	0.734					柏右衛門	2.694				
柳田 勘次郎	0.742					孫平	2.738	0.530		0.530	
紋右衛門	0.821					介兵衛	2.776				
伝介	0.826					長兵衛	2.816	0.150		0.150	
平九郎	0.844					六介	2.836				
吉兵衛	0.869					文七郎	2.838				
三四郎	0.898					長兵衛	2.899				
兵四郎	0.982					曾右衛門	2.974				
弥次右衛門	1.048					十介	3.039	0.398		0.398	
由右衛門	1.105					久作	3.070				
喜七郎	1.169					万作	3.193				
孫十郎	1.205					七右衛門	3.236				
助三郎	1.253					次郎九郎	3.244	0.340		0.340	
吹上 加左衛門	1.270					加右衛門	3.279	0.575		0.575	
赤崎 伝右衛門	1.298					久九郎	3.406	0.698		0.698	
権四郎	1.317					孫兵衛	3.458	0.438		0.438	
長太郎	1.343					利兵衛	3.470	0.418		0.418	
伝四郎	1.347					文右衛門	3.530	1.241		1.241	
佐吉郎	1.349	0.050		0.050		松十郎	3.597	0.665		0.665	

近世における備前児島の製塩業

名前	所持高	塩浜	開塩浜	塩浜全体	船運上	名前	所持高	塩浜	開塩浜	塩浜全体	船運上
	石						石				
弥四郎	3.638					長右衛門	8.463	1.536		1.536	
喜三右衛門	3.918	1.150		1.150		平四郎	8.521	0.840	1.025	1.865	
源次郎	3.926	0.655		0.655		幸次郎	8.609	1.045		1.045	15.69
喜八郎	3.952	0.210		0.210		善介藏	8.794		1.453	1.453	
伝兵衛	3.991	1.050		1.050		庄次郎	9.295	0.835	0.383	1.218	
次四郎	4.062	0.703		0.703		五郎七	9.313	1.995	0.113	2.108	
十右衛門	4.263					万平	9.595	0.781		0.781	
与吉郎	4.415	0.440		0.440		曾平	9.713	0.030	1.605	1.635	
平介	4.435	0.560		0.560		孫作	10.008	1.385	2.258	3.643	
清市郎	4.517	0.180	1.186	1.366	13.080	十藏	10.161		1.605	1.605	
権兵衛	4.523	0.560		0.560		加七郎	10.371	1.740	0.500	2.240	
相提	4.595	0.130		0.130		五郎右衛門	11.085				
茂四郎	4.668					曾野兵衛	11.279				
善七郎	4.805	0.665		0.665		善左衛門	12.716	0.645	3.140	3.785	
十兵衛	4.867					八左衛門	13.176	2.228	1.457	3.685	
紛右衛門	5.068	0.525		0.525		文大夫	13.409	0.650		0.650	
加市郎	5.078	0.508		0.508		和平	14.898	0.400		0.400	
長左衛門	5.091	0.573		0.573		槌右衛門	20.951	3.466	2.719	6.185	18.310
庄介	5.226	0.856		0.856		庄三郎					3.94
権三郎	5.230					惣兵衛					13.14
小左衛門	5.247	0.850		0.850		合計	583.188	51.336	25.925	77.261	
宇平次	5.412	0.435		0.435							
宗兵衛	5.538										
市郎兵衛	5.588	0.91	0.727	1.637							
与四郎	5.610		1.205	1.205							
松右衛門	5.621	1.515	0.095	1.610							
定平次	5.633	0.874		0.874							
権右衛門	5.647	0.970		0.970							
吉四郎	5.666		1.782	1.782							
文次郎	5.760	0.525		0.525							
伝右衛門	5.779	0.507		0.507							
持宝院(寺分)	5.801										
次郎三郎	5.945	0.750		0.750							
万次郎	6.079	1.505		1.505							
平三郎	6.187	0.600	1.400	2.000							
与右衛門	6.284										
作藏	6.587										
孫介	7.091		1.532	1.532							
梶右衛門	7.424	1.105		1.105							
与八郎	7.503	0.350	1.340	1.690							
久三郎	7.807	0.778		0.778							
六郎右衛門	7.942	1.340		1.340							
忠右衛門	8.138	1.535	0.400	1.935							
和右衛門	8.232	2.193		2.193	3.94						

【表6-2】石高に応じた人数と塩浜所持者

石	人数	塩浜所持者	船所持者
0～1	34	0	
1～2	24	2	1
2～3	21	3	
3～4	16	12	
4～5	10	7	1
5～6	18	15	
6～7	4	2	
7～8	5	5	
8～9	6	6	2
9～10	4	4	
10～11	3	3	
11～12	2	0	
12～13	1	1	
13～14	2	1	
14～15	1	1	
20～21	1	1	1
無高	0	0	2
	152	63	7

元文3年「児嶋郡味野村田畑高物成開方新々開共名寄指引算用帳」参照

岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

しているものはないことが判明する。船所持者については7名いるが、樋右衛門から無高のものにいたるまで持高に関係なく所持していることがわかる。ちなみに野崎浜を開発した武左衛門の高祖父に当る文大夫の持高は村内三番目で13石4斗0升9合、塩浜高は6斗5升である。

## 二、野崎浜開発前後の味野村塩浜所持

野崎浜は、文政12年(1829)に武左衛門(野崎)が開発した塩田として知られ、それ以降、武左衛門は児島郡内を中心に各地に塩田開発を行った【表7】。

この時期における塩浜所持の様子を「寛政十一年未十月 開方田畑塩浜畝名寄帳(以下「寛政十一年開方名寄帳」)」「文政三年十月 田畑塩浜畝名寄帳(以下「文政三年名寄帳」)」「文政三年十月 開方田畑塩浜畝名寄帳(以下「文政三年開方名寄帳」)」の3点の史料を中心に検討していきたい<sup>21)</sup>。これら3点の史料はいずれも「検地帳」ではなく「名寄帳」である。よって、領主が土地丈量を行い、土地面積や所持者などを確定したものではない。むしろ、田、畑、塩浜の荒地や起し返しをしたことによる土地所持者の変更や、土地面積の変動を整理し、名寄にしてまとめたものと考えられる。よって、味野村の耕地所持者の全体像を把握できるわけではないし、また、史料には加筆や抹消、付箋が多くある。このためいずれも、正確な数字や土地所持者を確定するのは難

【表7】武左衛門の塩田開発

	元野崎浜			日比亀浜
	味野村沖	赤崎村沖	合計	
開発時	10町3反1畝18歩	5町2反8畝01歩	15町5反9畝19歩	3町4反2畝25歩
	文政12年(1829)9月	天保2年(1831)4月		天保2年(1831)9月
地租改正時	33町4反6畝13歩	15町5反0畝24歩	48町9反7畝07歩	11町1反8畝20歩
	東野崎浜			久々井浜
	南浜	北浜	合計	
開発時	20町3反1畝00歩	6町9反7畝17歩	27町2反8畝17歩	2町3反3畝23歩
	嘉永4年(1851)正月	明治3年(1870)10月		万延元年(1860)8月
地租改正時	54町1反6畝28歩	19町8反0畝09歩	73町9反6畝07歩	7町9反4畝12歩

『備前児島 野崎家の研究』(1981年)参照

しい。

「寛政十一年開方名寄帳」を参照すると、文化期までの記載がある。逆に「文政三年開方名寄帳」には、元禄期から幕末までの記載がある。「文政三年名寄帳」も同様である。

ただ、この三点の「名寄帳」について概観すると、寛政十一年（1799）ごろまでの土地所持動向の移動を名寄で記しつつ、さらにその後の変動を記したものが、「寛政十一年開方名寄帳」で、文政3年（1820）に名寄で整理したものが「文政三年名寄帳」であると考えられる。もちろん、その後も、土地所持関係の変化や開発、荒地が存在し、同史料に加筆、付箋で対応することもあったが、それらを帳簿として書き留めたものが「文政三年開方名寄帳」ということになる。つまり、「寛政十一年開方名寄帳」が、文政三年までの土地所持動向を記したもので、「文政三年名寄帳」が同年の土地所持を名寄で整理したもので、「文政三年開方名寄帳」が幕末に至るその後の土地所持動向を記したものと整理できるだろう。もっとも、確実にあてはまるものばかりではないが、野崎浜が開発された前後の塩浜の様子についておおよそ理解できるものと考えられる。

### 1、「寛政十一年未十月 開方田畑塩浜畝名寄帳」の分析

まず最初に味野村における「寛政十一年開方名寄帳」を検討していく。同史料にはおおよそ200名の名前が記載されている。寛政10年（1798）の味野村の家数は178軒であり、味野村のおおよその人が何らかの記載がされていると考えられる。

同史料に基づき作成した【表8】を参照すると、塩浜についての記載があるものが26名で61筆であった。1筆当りの面積が1反以下の塩浜が60筆で【表8-1】、最大でも1反21歩のみであり、零細な塩浜であったことが判明する。塩浜の所持が確認できる家数は26軒である。味野村の村民の1割程度の製塩に携わっていたということなのだろう。これらの塩浜を複数所持する家もあったが、1人当たりの所持面積は合計でも1反以下が20名、1反から1反5畝が

【表8】「寛政十一年 開方田畑塩浜畝名寄帳」から見た塩浜所持の様子

【表8-1】1筆面積

	筆数
0～3畝	23
3～7畝	26
7～10畝	11
1反～1反5畝	1
	61筆

【表8-2】人当り所持面積

	人数
0～5畝	6
5～10畝	14
1反～1反5畝	4
それ以上	
2反9畝	1
6反4畝	1
	26名

寛政11年10月「開方田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」  
岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

4名と、ほとんどが塩田所持面積はわずかでしかなかった。他の2名は、2反9畝（権左衛門）と6反4畝（吉次郎）であった（【表8-2】）。

塩浜を6反4畝所持していた吉次郎は、塩浜だけでなく田畑も所持している。もともとは下浜を1反4畝23歩半所持しており、寛政10年（1798）8月に8畝1歩、享和元年（1801）6月に7畝20歩入手し、その後、文化元年（1804）から12年にかけて7筆＝3反4畝弱を入手し、漸次塩田を集積している。よって、吉次郎は製塩業は他の人と同様に副業的に製塩業が行われていたが、次第に田畑を集積するに従い、塩田を集積しているということなのだろう。

## 2、「文政三年十月 田畑塩浜畝名寄帳」の分析

次に文政3年（1820）10月に作成された「名寄帳」を検討していく【表9】。同史料も付箋や加筆などがなされており、正確に把握するのは困難だが、およそ376人の耕地所持の様子が記載されている。その中には柳田村、小川村、赤崎村、菰池村、下津井村、吹上村、塩生村、赤崎村などから入作がなされていることが判明する。

野崎浜が開発される以前から味野村では4町歩から5町歩程度の塩浜がひろがっていた。塩浜を所持しているのは78名で塩浜は281筆である。塩浜だけを所持している家はおらず、農業と製塩業を兼業している。1筆当りの面積でみると（【表9-1】）、1反歩以下が280筆と零細な塩田がひろがっていた。1反

【表9】「文政三年 田畑塩浜畝名寄帳」による塩浜所持状況

【表9-1】1筆面積

	筆数
0～3畝	190
3～7畝	86
7～10畝	4
1反～1反5畝	1
1反5畝	
	281

【表9-2】筆数

筆数	人数
1	25
2	17
3	14
4	5
5	4
6	3
7	3
8	0
9	1
10	3
11	1
22	1
29	1
合計	78

【表9-3】1人当り所持面積

面積	人数
0～5畝	38
5～10畝	19
1反～1反5畝	9
1反5畝～	12
合計	78

【表9-4】1反5畝以上

1反5畝12歩
1反5畝18歩
1反5畝23歩半
1反7畝8歩
1反8畝14歩
1反8畝28歩
1反9畝29歩
2反3畝6歩
3反1畝4歩
3反6畝19歩
5反5畝10歩半
6反1畝10歩半

「文政三年 田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」（岡山大学附属図書館所蔵児島家文書）参照

【表10】文政3年（1820）段階の武左衛門の土地所持

	畝	歩
上田	16	4.0
中田	5	20.0
下田	12	11.0
下々田	51	25.0
上畑	6	20.5
中畑	18	1.0
下畑	16	25.5
下々畑	22	25.0
塩浜	23	6.0
合計	173	18.0

「文政三年 田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」（岡山大学附属図書館所蔵児島家文書）参照

歩以上の塩浜も1反3畝5歩であり、必ずしも広いわけではない。1人で5筆以下所持しているのが8割以上の65名で6筆から10筆が10名、他に11筆、22筆、29筆と、それぞれ1名いた（【表9-2】）。この点は所持面積からも同様な傾向がわかる。すなわち、所持面積が1反歩以下が66名と8割5分近い。2反歩までが7名、5反歩までが3名であった（【表9-3】）。それ以上は、5反5畝10歩半の和右衛門と6反1畝10歩半の善二郎の2人だけである（【表9-4】）。

いずれも田畑を所持しており、塩浜を専業としていたわけではない。

武左衛門について注目しよう。野崎浜を開発する以前から武左衛門は田畑・塩浜を所持していた。【表10】の通りである。全体として武左衛門は、1町7反3畝18歩の田畑、塩浜を所持し、塩浜は2反3畝程度所持していたことになる。村内で富農層に位置づけられるが、必ずしも村内で特筆するほど広い面積を所持していたわけではない。

### 3、「文政三年十月 開方田畑塩浜畝名寄帳」の分析

次に「文政三年 開方名寄帳」について検討する。【表11】を参照しよう。

文政12年9月に野崎浜（味野村沖合は10町3反1畝18歩、なお野崎浜の場合、赤崎村沖合5町2反8畝1歩も含む）が開発されており、これらも同史料に含まれている。

さて、同史料で塩浜に関する叙述は42名で265筆であった。1筆だけで15名で、5筆までで30名と塩浜所持者のほぼ4分の3であった。ただ、武左衛

【表11】「文政三年 開方田畑塩浜畝名寄帳」にみる塩浜所持

【表11-1】1筆面積

	筆数
0～3畝	75
3～7畝	88
7～10畝	79
1反～1反5畝	22
1反5畝	1
	265

【表11-2】筆数

筆数	人数
1	15
2	8
3	1
4	4
5	2
6	1
7	1
8	4
9	0
10	3
11	0
12	1
13	1
105	1
合計	42

【表11-3】1人当り所持面積

面積	人数
0～5畝	10
5～10畝	14
1反～1反5畝	3
1反5畝以上	15
合計	42

「文政三年 開方田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」

岡山大学附属図書館所蔵児島家文書



近世における備前児島の製塩業

門が105筆所持し、圧倒的に多い。

1筆相当の面積は、1反5畝以内が264筆で、1反5畝以上は1筆だけである。それも1反8畝9歩である。零細な塩田が広がっていることがわかるだろう。

また、1人当たりの塩浜の所持は、1反5畝以内が27名、9筆以内が37名であった。こうした人たちは幕末に至るまで半農半塩と、製塩業を専業とせず副業のものがほとんどであったといえるだろう。

1反5畝以上所持しているのは15名おり【表12】の通りである。同表を参照すると、文政12年9月に野崎浜が開発されており、これが反映されている。すなわち、野崎浜の開発で塩田を所持することになる。武左衛門（7町9反4畝12歩半）を筆頭に善三郎（7反3畝）、又七（5反2畝9歩）、徳次郎（2反7畝24歩）、赤崎村伊八（1反9畝12歩）が含まれている。他にも野崎浜の開発に直接関わったわけではない喜介、和右衛門など5反歩以上所持している人も登場する。野崎浜の開発の様子については次項で述べるとして、他の塩浜所持者は、幕末期にまとめて塩浜を入手し、近世後期にかけて漸次塩浜を入手

【表12】 文政3年以降、味野村での1反5畝以上の塩浜所持者

塩浜所持面積	名前	塩浜入手時期
1反5畝12歩	捨次郎	嘉永2年に入手
1反5畝21歩	小川村、浅兵衛	文政期に入手
1反6畝0歩	林平	弘化2年に入手
1反6畝0歩	吹上村安次郎	安政5年に入手
1反9畝12歩	○赤崎村伊八	野崎浜開発
2反6畝10歩半	久五郎	文政、天保期入手
2反8畝12歩	馬沼村伝造	ほとんど嘉永2年に入手
3反3畝05歩	○徳次郎（開発時2反7畝24歩）	ほとんど野崎浜開発
3反7畝03歩半	勝四郎	文化・天保期に入手
5反2畝09歩	○又七	野崎浜開発
5反3畝10歩	和右衛門	ほとんどが嘉永期ごろ。ただし元禄期ごろ開発したのもも文政期に入手。
6反4畝13歩半	喜介	天保・嘉永期に入手
6反4畝20歩半	○孝左衛門	野崎浜開発
7反3畝00歩	○善三郎	野崎浜開発
7町9反4畝12歩半	○武左衛門	野崎浜開発

○印は野崎浜開発に関与

「文政三年 開方田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

する場合など様々だが、いずれにせよ、塩田の広がりに応じて、塩浜を集積する人がいたということである。ただ、それは、武左衛門を始めとして、野崎浜の開発に関与した人ではなかった。副業として零細の塩浜を集積している。ただし、他地域の塩田で見られるような塩田の統廃合がなされていたというわけではないようである。野崎浜開発とそれ以降については次項で紹介する。

#### 4、田井村での塩田開発

田井村では天保7年（1836）に5町歩ほど開発している。田井村には塩浜が広く存在しており、野崎浜の開発以前は最大の製塩地であった。「児島郡田井村浜辺に凡見面五町同村善兵衛、嘉兵衛外二拾一人引請塩浜新開築立申度・・・」と、23名で塩浜新開がなされたとする<sup>22)</sup>。その検地結果が【表 13-1】である。1筆ごとにそれぞれ穴床敷（沼井）が配置されており、穴床敷を単位に塩田が区画されている。また【表 13-2】の田井村塩新開の所持者を参照すると23名で開発が進められたとするが17名の所持者によって構成されている。開発の中心者として考えられる嘉兵衛と善兵衛は、それぞれ24筆、1町5反程度（嘉

【表 13-1】 田井村塩新開塩浜面積

	『撮要録』		「児島郡田井村塩浜新開願上帳」			『撮要録』		「児島郡田井村塩浜新開願上帳」	
	畝	歩	畝	歩		畝	歩	畝	歩
亀市	7	10	7	10.0	久六	6	10	6	10.0
甚四郎	8	24	8	24.0	治右衛門	6	10	6	10.0
源左衛門	10	8	10	2.5	弥十郎	6	10	6	10.0
伊之助	10	19	10	19.0	弥十郎	6	10	6	10.0
藤蔵	10	19	10	19.0	儀介	6	10	6	10.0
良蔵	10	19	10	19.0	伝次郎	6	10	6	10.0
治三郎	8	10	8	10.0	伝次郎	6	10	6	10.0
治三郎	8	10	8	10.0	孫市	6	10	6	10.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	7	0	6	25.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	6	20	6	15.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	6	15	6	10.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	6	15	6	10.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	6	10	6	5.0
治三郎	8	10	8	10.0	善兵衛	6	10	6	5.0
久六	6	10	6	10.0	善兵衛	6	10	6	5.0

近世における備前児島の製塩業

	『撮要録』		「児島郡田井村 塩浜新開願上帳」	
	畝	歩	畝	歩
善兵衛	6	10	6	5.0
善兵衛	6	10	6	5.0
常左衛門	6	7	6	1.5
常左衛門	6	18	6	12.5
常左衛門	6	29	6	21.5
常左衛門	7	10	7	10.0
常左衛門	7	26.5	7	21.0
常左衛門	7	10	7	5.0
常左衛門	7	15	7	10.0
常左衛門	7	25	7	20.0
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	8	7.5	8	7.5
嘉兵衛	7	15	7	6.0
嘉兵衛	7	15	7	6.0
嘉兵衛	7	15	7	6.0
嘉兵衛	7	6	7	6.0
嘉兵衛	7	6	7	6.0
嘉兵衛	7	6	7	6.0
嘉兵衛	7	6	7	6.0
善介	7	6	7	6.0
善介	7	1.5	6	27.0
善介	7	1.5	6	27.0
善介	7	1.5	6	27.0
善介	6	18	6	18.0
善介	6	4.5	6	4.5
善介	5	25.5	5	25.5
善介	5	21	5	21.0
嘉兵衛	3	9	3	9.0
嘉兵衛	3	27	3	27.0
嘉兵衛	4	24	4	24.0
嘉兵衛	4	24	4	24.0
嘉兵衛	4	24	4	24.0
嘉兵衛	4	24	4	24.5

	『撮要録』		「児島郡田井村 塩浜新開願上帳」	
	畝	歩	畝	歩
嘉兵衛	4	10.5	4	10.5
嘉兵衛	4	1.5	4	1.5
嘉兵衛	3	18	3	18.0
嘉兵衛	3	0	3	0.0
合計	508	4	503	20.0

【表 13-2】 田井村新開塩浜所持

	畝	歩	筆数
亀市	7	10	1
甚四郎	8	24	1
源左衛門	10	8	1
伊之助	10	19	1
藤藏	10	19	1
良藏	10	19	1
治三郎	66	20	8
久六	12	20	2
治右衛門	6	10	1
弥十郎	12	20	2
儀介	6	10	1
伝次郎	12	20	2
孫市	6	10	1
善兵衛	58	10	9
常左衛門	57	20.5	8
嘉兵衛	150	13.5	24
善介	59	21	9
合計	508	4	73

【表 13-3】 田井村新開 1 筆相当面積

畝	筆数
3 ~ 4	4
4 ~ 5	6
5 ~ 6	2
6 ~ 7	22
7 ~ 8	19
8 ~ 9	16
9 ~ 10	0
10 ~ 11	4
	73

「田井村新開」（『撮要録』 日本文教出版株式会社、1965年）

「天保七年五月 児島郡田井村塩浜新開願上帳」（岡山大学附属図書館所蔵児島家文書）

兵衛)、9筆、5反8畝程度(善兵衛)を所持している。他に治三郎が8筆で6反6畝程度所持し、善介が9筆で5反9畝程度、常左衛門が8筆で5反7畝程度と続くが、残りの12人は1筆か2筆程度であった。その意味で、嘉兵衛、善兵衛を含めた5名が中心となり塩浜新開が行われたと考えられる。なお、【表13-3】が1筆相当の面積だが、6畝から9畝がほとんどで、最大でも1反19歩が3筆だけであった。零細な塩田が拡がっているといえるだろう。

### 三、野崎浜の開發

まず文政12年(1829)に開發された野崎浜の開發事情について、『野崎家の研究』から概要を紹介していくことにしよう<sup>23)</sup>。野崎浜の開發は文政9(1826)年12月に天城村の富次郎(味野村の武左衛門の義伯父である)が武左衛門に対し「味野村沖海面新開ニ築立塩浜新開ニ致ス時者用水之手当も入不申、寔是そ土蔵ニ宝金を貯と申もの也」と説得し、野崎浜の開發についての「新開願書」を児嶋郡奉行である児島後三郎に提出したことに始まる<sup>24)</sup>。以下、『撮要録』から開發の様子を紹介しよう<sup>25)</sup>。

#### 【史料】

味野村 赤崎村 塩浜

文政十年丁亥十一月

児島郡味野赤崎両村沖堤外海面凡二拾町余味野村武左衛門新開築立塩浜仕度段願之場所見分仕候处、願之通相違無御座候、塩浜相応之土地と相見へ申候素り味野赤崎両村隣村小川村とも故障有之場所とは相見不申候へ共、為念三村とも惣代之者呼出故障無御座段、受印取置申候願之通被仰付可然奉存候、右新開船入川汐廻し等四方堤其外汐遊ひ或は塩浜穴床引方多分に可有御座と奉存候、則先達て御渡被成候、絵図朱書入仕願書受書とも相添差上申候

亥十月

篠井作左衛門

右下役人書付并願書絵図共御用老へ入御披見候上十一月六日承届  
一文政十二年巳丑四月

近世における備前児島の製塩業

味野村前新塩浜築立候付検地之儀丑二月武左衛門より願出候付下役人再見分申付左之通

児島郡大庄屋槌ケ原村太兵衛組合味野村武左衛門より先達で願出篠井作左衛門杭入置候新開塩浜之内味野村前堤築候付再見分左之通御座候一堤築立之内竈屋敷坪数浜子小屋敷或薪置場汐遊び汐廻し、戸井台并端々速に難發生分も当時指除凡畝横

畝合凡拾二町六反七畝拾二歩半

内二町五反七畝 穴床敷

残て凡拾町一反拾二歩半

一石代高九百一石四升二合

物成凡三拾三石三斗四升四合 免三ツ三分

内 凡畝六反七畝拾六歩半

高凡六石七斗五升五合 此分当丑歳中發生 寅ヨリ辰迄鋤下三ケ年迄

凡畝九町四反二畝二十六歩

高凡九拾四石二斗八升七合 此分丑寅兩年ニ發立卯ヨリ巳迄鋤下三ケ年迄

右之通免斗代并鋤下共被仰付可然奉存候

一潮樋水門二ケ所外に用水潮樋数々相見へ申候、右二ケ所水門樋守給二石鋤下年明より物成引に被仰付可然奉存候、則小帳二冊先達で御渡之願書とも相添差上申候、以上

丑三月

三宅安太郎

右四月廿五日承届帳面御郡奉行へ下る

味野村武左衛門、薪塩支配之事、工商之卷に記

「児島郡味野赤崎両村沖堤外海面凡二拾町余味野村武左衛門新開築立塩浜仕度段願之場所」と、味野村の武左衛門は味野村、赤崎村の浜辺の干満の場 20 町歩余りを塩田開発地にすることを提案している。同地が塩浜の適地であると、味野赤崎両村隣村小川村とも故障有之場所とは相見不申候へ共、為念三

村とも惣代之者呼出故障無御座段、受印取置申候」と、隣村からも支障ないと  
の回答を得ている。また、開発に当り、利益は興除新田の開発資金に充てるこ  
とを述べると共に、3～4年の畝下年季や武左衛門に塩問屋株を与えることな  
どを願ひ出ている。実際、武左衛門は天保2年（1831）に塩・石炭問屋の允許  
を得て、味野改所を設置している<sup>26)</sup>。開発許可を受けた翌年、味野村に隣接  
する小川村から悪水処理で故障を指摘されるものの解決し、児島郡樋ケ原村大  
庄屋太兵衛が「傍示建」として築調する区画を設定している。

【史料】を参照すると、野崎浜は四方を堤で囲み、堤内に竈屋敷、浜子小屋、  
薪置場、汐遊び、汐廻しなどを設置することとしている。また、「潮樋水門二  
ヶ所外に用水潮樋数々相見へ申候、右二ヶ所水門・・・」と、海水から潮水を  
導入する水門が2か所あり、さらに塩浜内に導入する樋門がいくつもあること  
がわかるだろう。

かくして9月に、工事完成を祈念し竜神祭が催される。翌年8月には味野村  
沖新開の汐止めが完成し、文政12年（1829）5月に塩作りが初めて行われ、  
初穂塩が焼き立てられた。同年12月には赤崎村沖新開の汐止めが行われた。  
天保2年（1831）4月に、検地竿入れが行われた。かくして味野村では10町3  
反1畝18歩、赤崎村では5町2反8畝1歩の塩浜（野崎浜）が開発されたの  
である<sup>27)</sup>。

野崎浜の開発がわかる「文政十二年丑九月 児島郡味野村新開塩浜検地帳」  
がある。この検地帳をもとに土地所持の様子や区画を明らかにしたのが【表14】  
である。野崎浜（味野村）の開発について、土地所持を示す史料は、野崎浜開  
発に関する内容を作成した順で紹介すると、「文政十二年児島郡味野村新開塩  
浜願上帳」「文政十二年九月児島郡味野村新開塩浜検地帳」「文政三年開方田畑  
塩浜畝名寄帳」の三点ある<sup>28)</sup>。開発後の検地を願ひ上げるために書き上げた  
「文政十二年児島郡味野村新開塩浜願上帳」によれば、所持者は武左衛門のみ  
で記載され、個々の塩田の大きさは、実際に検地をおこない作成した「児島郡  
味野村新開塩浜検地帳」と比較すると、穴床敷の面積は同一だが塩田面積は若  
干狭い。

近世における備前児島の製塩業

【表 14】 野崎浜開発の土地面積と土地所持

	「文政十二年 児島郡味野村 新開塩浜願上帳」					「文政十二年九月 児島郡味野村 新開塩浜検地帳」					「文政三年 開方田畑塩浜 畝名寄帳 児島郡味野村」			
	縦 (間)	横 (間)	面積 畝 歩		穴床数 畝歩	縦 (間)	横 (間)	面積 畝 歩		穴床数 畝 歩	面積 畝 歩		所持者	
い一	19.0	4.0	2	16.0	0.09	20.0	4.0	2	20.0	0	9	2		11.0
い二	19.0	4.5	4	8.0	0.24	29.0	5.0	4	25.0	0	24	4	1.0	武左衛門
い三	40.5	5.0	6	22.5	1.09	42.0	5.0	7	0.0	1	9	5	21.0	武左衛門
い四	52.5	6.0	10	15.0	1.24	52.5	6.0	10	15.0	1	24	8	21.0	武左衛門
い五	64.5	5.5	11	24.5	2.00	64.5	5.5	11	24.5	2	0	9	24.5	武左衛門
い六	77.5	5.5	14	6.0	2.06	78.0	5.5	14	9.0	2	6	12	3.0	武左衛門
い七	90.0	5.0	15	0.0	2.24	90.0	5.0	15	0.0	2	24	12	6.0	武左衛門
い八	91.0	5.5	16	20.5	3.06	92.0	5.5	16	26.0	3	6	13	20.0	武左衛門
ろ一						45.5	6.0	9	3.0	1	18	7	15.0	武左衛門
ろ又一						54.0	6.0	10	24.0	1	24	9	0.0	武左衛門
ろ二						52.0	6.0	10	12.0	1	24	8	18.0	武左衛門
ろ又二						54.0	6.5	11	21.0	1	24	9	27.0	武左衛門
ろ三						56.0	6.0	11	6.0	2	0	9	6.0	武左衛門
ろ又三						55.0	6.5	11	27.5	1	24	10	3.5	武左衛門
ろ四	58.0	5.5	10	19.0	2.03	59.0	5.5	10	24.5	2	3	8	21.5	武左衛門
ろ又四	53.0	5.5	9	21.5	1.24	53.0	5.5	9	21.5	1	24	7	27.5	武左衛門
は一	61.0	6.0	12	6.0	2.06	62.0	6.0	12	12.0	2	6	10	6.0	武左衛門
は一又一	53.0	5.5	9	21.5	1.24	53.0	5.5	9	21.5	1	24	7	27.0	武左衛門
は二	62.0	6.0	12	12.0	2.06	62.0	6.0	12	12.0	2	6	10	6.0	武左衛門
は又二	53.0	6.5	11	14.5	1.24	54.0	6.5	11	21.0	1	24	9	27.0	武左衛門
は三	64.5	5.5	11	24.5	2.06	65.0	5.5	11	27.5	2	6	9	21.5	武左衛門
は又三	54.0	5.0	9	0.0	1.24	55.0	5.0	9	5.0	1	24	7	11.0	武左衛門
は四	68.0	5.5	12	14.0	2.12	68.0	5.5	12	14.0	2	12	10	2.0	武左衛門
は又四	53.5	5.0	8	27.5	1.24	55.0	5.5	10	2.5	1	24	8	8.5	武左衛門
に一	66.5	6.0	13	9.0	2.12	67.0	6.0	13	12.0	2	12	11	0.0	武左衛門
に又一	57.0	6.5	12	10.5	2.06	57.0	6.0	11	12.0	2	6	9	6.0	武左衛門
に二	67.5	6.0	13	15.0	2.12	68.0	6.0	13	18.0	2	12	11	6.0	武左衛門
に又二	55.5	6.0	11	3.0	2.06	55.5	6.0	11	3.0	2	6	8	27.0	武左衛門
に三	70.0	5.0	11	20.0	2.12	70.5	5.5	12	27.5	2	12	10	15.5	武左衛門
に又三	55.5	5.5	10	5.0	2.06	55.5	5.5	10	5.0	2	6	7	29.0	武左衛門
に四	70.5	5.5	12	27.5	2.18	71.0	5.5	13	0.5	2	18	10	12.5	武左衛門
に又四	55.5	5.5	10	5.0	2.06	56.0	5.5	10	8.0	2	6	8	2.0	武左衛門
ほ一	70.5	6.5	15	8.0	2.12	71.0	6.5	15	11.5	2	12	12	29.5	武左衛門
ほ又一	56.0	6.5	12	4.0	2.06	56.0	6.5	12	4.0	2	6	9	28.0	武左衛門
ほ二	68.5	6.5	14	25.0	2.12	68.5	6.5	14	25.0	2	12	12	13.0	武左衛門
ほ又二	55.5	6.0	11	3.0	2.06	56.0	6.0	11	6.0	2	6	9	0.0	武左衛門
ほ三	67.5	6.0	13	15.0	2.12	68.0	6.0	13	18.0	2	12	11	6.0	武左衛門
ほ又三	56.0	6.0	11	6.0	2.06	56.0	6.0	11	6.0	2	6	9	0.0	武左衛門
ほ四	67.5	6.0	13	15.0	2.06	67.5	6.0	13	15.0	2	6	11	9.0	武左衛門
ほ又四	54.0	5.5	9	24.0	2.06	54.0	5.5	9	27.0	2	6	7	21.0	武左衛門
へ一	64.0	7.0	14	28.0	2.12	64.0	7.0	14	28.0	2	12	12	16.0	武左衛門
へ二	62.5	5.5	11	13.5	2.12	63.0	5.5	11	16.5	2	12	9	4.5	武左衛門
へ三	60.0	6.0	12	12.0	2.12	60.0	6.0	12	0.0	2	12	9	18.0	武左衛門
へ四	60.0	6.0	12	12.0	2.12	60.0	6.0	12	0.0	2	12	9	18.0	武左衛門

青山經濟論集 第 74 卷 第 3 号

	「文政十二年 児島郡味野村 新開塩浜願上帳」					「文政十二年九月 児島郡味野村 新開塩浜検地帳」					「文政三年 開方田畑塩浜 畝名寄帳 児島郡味野村」				
	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝歩	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝 歩	面積		所持者		
			畝	歩				畝	歩		畝	歩			
へ五	59.0	6.0	11	24.0	2.12	60.0	6.0	12	0.0	2	12	9	18.0	武左衛門	
へ六	58.0	6.0	11	18.0	2.06	59.0	6.0	11	24.0	2	6	9	18.0	武左衛門	
へ七	56.0	5.5	10	8.0	2.06	57.0	5.5	10	13.5	2	6	8	7.5	武左衛門	
へ八	56.0	5.5	10	8.0	2.06	56.0	5.5	10	8.0	2	6	8	2.0	武左衛門	
と一	43.5	2.0	2	27.0	0.18	42.5	2.0	2	25.0	0	18	2	7.0	武左衛門	
と二	57.5	5.0	9	17.5	2.06	58.0	5.0	9	20.0	2	6	7	14.0	武左衛門	
と三	56.5	5.5	10	10.5	2.06	57.0	5.5	10	13.5	2	6	8	7.5	武左衛門	
と四	55.5	5.0	9	7.5	2.06	57.0	5.0	9	15.0	2	6	7	9.0	武左衛門	
と五	54.5	5.0	9	2.5	2.06	55.5	5.0	9	7.5	2	6	7	1.5	武左衛門	
と六	54.5	5.0	9	2.5	2.06	55.0	5.0	9	5.0	2	6	6	29.0	武左衛門	
と七	52.5	5.0	8	22.5	1.24	53.0	5.0	8	25.0	1	24	7	1.0	武左衛門	
と八	52.5	5.5	9	18.5	2.06	53.0	5.5	9	21.5	2	6	7	15.5	武左衛門	
ち一	53.0	4.5	7	28.5	1.18	53.0	4.5	7	28.5	1	18	6	10.5	武左衛門	
ち又一	50.0	4.0	6	20.0	1.12	52.0	4.5	7	24.0	1	12	6	12.0	武左衛門	
ち二	52.0	4.5	7	24.0	1.18	52.0	5.0	8	20.0	1	18	7	2.0	武左衛門	
ち又二	52.5	4.5	7	26.0	1.24	54.0	4.5	8	3.0	1	24	6	9.0	武左衛門	
ち三	50.0	5.0	8	10.0	2.00	50.0	4.5	7	15.0	2	0	5	15.0	武左衛門	
ち又三	50.5	5.0	8	12.5	2.00	51.0	5.0	8	15.0	2	0	6	15.0	武左衛門	
ち四	49.0	4.5	7	10.5	1.24	50.0	4.5	7	15.0	1	24	5	21.0	武左衛門	
ち又四	52.0	5.0	8	20.0	2.00	52.0	5.0	8	20.0	2	0	6	20.0	武左衛門	
ち五	49.0	4.5	7	10.5	1.24	50.0	4.5	7	15.0	1	24	5	21.0	武左衛門	
ち又五	52.0	4.5	7	24.0	1.18	52.0	5.0	8	20.0	1	18	7	2.0	武左衛門	
り一	51.5	4.5	7	21.5	1.24	52.0	5.0	8	20.0	1	24	6	26.0	武左衛門	
り又一	53.5	5.0	8	27.5	2.00	53.5	5.0	8	27.5	2	0	6	27.5	武左衛門	
り二	50.0	5.0	8	10.0	2.00	51.0	5.0	8	15.0	2	0	6	15.0	武左衛門	
り又二	53.5	5.0	8	27.5	2.00	53.5	5.0	8	27.5	2	0	6	27.5	武左衛門	
り三	50.0	5.0	8	10.0	2.00	50.0	5.0	8	10.0	2	0	6	10.0	武左衛門	
り又三	53.5	5.0	8	27.5	2.00	54.0	5.0	9	0.0	2	0	7	0.0	武左衛門	
り四	50.0	4.5	7	15.0	1.24	50.0	4.5	7	15.0	1	24	5	21.0	武左衛門	
り又四	53.5	4.5	8	0.5	1.18	54.0	4.5	8	3.0	1	18	6	15.0	武左衛門	
り五	48.5	4.5	7	8.0	1.24	49.0	4.5	7	10.5	1	24	5	16.5	武左衛門	
り又五	54.0	4.5	8	3.0	1.18	55.0	4.5	8	7.5	1	18	6	19.5	武左衛門	
ぬ1	39.0	4.0	5	6.0	1.06	40.0	4.0	5	10.0	1	6	4	4.0	徳次郎	
ぬ又1	44.0	4.0	5	26.0	1.12	46.0	4.0	6	4.0	1	12	4	22.0	徳次郎	
ぬ2	39.5	4.5	5	27.5	1.12	40.0	4.5	6	0.0	1	12	4	18.0	徳次郎	
ぬ又2	47.5	4.0	6	10.0	1.12	48.0	4.0	6	12.0	1	12	5	0.0	徳次郎	
ぬ3	38.5	4.5	5	23.0	1.12	40.0	4.5	6	0.0	1	12	4	18.0	徳次郎	
ぬ又3	45.5	4.0	6	2.0	1.12	46.0	4.0	6	4.0	1	12	4	22.0	徳次郎	
ぬ4	38.0	4.5	5	21.0	1.12	39.5	4.5	5	27.5	1	12	4	15.5	赤崎村伊八	
ぬ又4	46.5	4.0	6	6.0	1.12	47.0	4.0	6	8.0	1	12	4	26.0	赤崎村伊八	
ぬ5	37.0	4.5	5	16.5	1.12	38.0	4.5	5	21.0	1	12	4	9.0	赤崎村伊八	
ぬ又5	47.5	4.5	7	3.5	1.12	47.5	4.5	7	3.5	1	12	5	21.5	赤崎村伊八	
る1	35.0	4.5	5	7.5	1.12	35.0	4.5	5	7.5	1	12	3	25.5	又七	
る又1	48.0	4.0	6	12.0	1.12	48.0	4.5	7	6.0	1	12	5	24.0	又七	
る2	34.5	5.0	5	22.5	1.12	35.0	5.0	5	25.0	1	12	4	13.0	又七	



近世における備前児島の製塩業

	「文政十二年 児島郡味野村 新開塩浜願上帳」					「文政十二年九月 児島郡味野村 新開塩浜検地帳」					「文政三年 開方田畑塩浜 畝名寄帳 児島郡味野村」				
	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝歩	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝歩	面積		所持者		
			畝	歩				畝	歩		畝	歩			
る又2	48.0	5.0	8	0.0	1.24	48.5	5.0	8	2.5	1	24	6	8.5	又七	
る3	33.5	5.0	5	17.5	1.12	33.5	5.0	5	17.5	1	12	4	5.5	又七	
る又3	48.0	4.5	7	6.0	1.12	48.0	4.5	7	6.0	1	12	5	24.0	又七	
る4	33.5	5.0	5	17.5	1.06	34.0	5.5	6	7.0	1	6	5	1.0	又七	
る又4	49.0	4.5	7	10.5	1.18	49.0	5.0	8	5.0	1	18	6	17.0	又七	
る5	33.5	4.5	5	0.5	1.06	33.5	4.5	5	0.5	1	6	3	24.5	又七	
る又5	50.0	5.0	8	10.0	1.24	50.0	5.0	8	10.0	1	24	6	16.0	又七	
を一	45.0	3.0	4	15.0	1.00	45.0	3.0	4	15.0	1	0	3	15.0	武左衛門	
を二	42.5	3.5	4	28.5	1.00	45.0	4.0	6	0.0	1	0	5	0.0	武左衛門	
を三	42.5	4.5	6	11.0	1.12	45.0	4.5	6	22.5	1	12	5	10.5	武左衛門	
を四	44.5	4.5	6	20.0	1.12	45.5	4.5	6	24.5	1	12	5	12.5	武左衛門	
を五	45.5	4.5	6	24.5	1.12	45.5	4.5	6	24.5	1	12	5	12.5	武左衛門	
を六	49.0	5.0	8	5.0	1.24	49.0	5.0	8	5.0	1	24	6	11.0	武左衛門	
を七	50.0	5.0	8	10.0	1.24	50.0	5.0	8	10.0	1	24	6	16.0	武左衛門	
わ一	54.5	5.0	9	2.5	2.00	55.0	5.0	9	5.0	2	0	7	5.0	武左衛門	
わ二	55.0	5.0	9	5.0	2.00	55.0	5.0	9	5.0	2	0	7	5.0	武左衛門	
わ三	55.0	5.0	9	5.0	2.00	55.0	5.0	9	5.0	2	0	7	5.0	武左衛門	
わ四	59.0	5.0	9	25.0	2.00	60.0	5.0	10	0.0	2	0	8	0.0	武左衛門	
わ五						62.0	5.0	10	10.0	2	6	8	4.0	武左衛門	
わ六						64.5	5.5	11	24.5	2	12	9	12.5	武左衛門	
わ七						67.0	6.0	13	12.0	2	24	10	18.0	武左衛門	
か1	70.5	7.0	16	13.5	3.12	71.5	7.0	16	20.5	3	12	13	8.5	善三郎	
か又1	55.0	7.0	12	25.0	2.18	55.5	7.0	12	28.5	2	18	10	10.5	善三郎	
か2	67.0	5.0	11	5.0	2.06	67.0	5.0	11	5.0	2	6	8	29.0	善三郎	
か又2	58.0	5.5	10	19.0	2.06	60.0	5.5	11	0.0	2	6	8	24.0	善三郎	
か3	64.0	5.0	10	20.0	2.06	65.0	5.0	10	25.0	2	6	8	19.0	善三郎	
か又3	59.0	5.0	9	25.0	2.00	60.0	5.0	10	0.0	2	0	8	0.0	善三郎	
か4	55.5	5.0	9	7.5	1.24	56.5	5.0	9	12.5	1	24	7	18.5	善三郎	
か又4	61.0	4.5	9	4.5	1.24	61.0	4.5	9	4.5	1	24	7	10.5	善三郎	
よ1	50.0	5.0	8	10.0	1.24	50.0	5.0	8	10.0	1	24	6	16.0	孝左衛門	
よ又1	56.0	5.0	9	10.0	1.24	56.0	5.0	9	10.0	1	24	7	16.0	孝左衛門	
よ2	49.0	5.5	8	29.5	1.24	50.0	5.5	9	5.0	1	24	7	11.0	孝左衛門	
よ又2	55.0	5.0	9	5.0	1.24	56.0	5.0	9	10.0	1	24	7	16.0	孝左衛門	
よ3	40.0	5.5	7	10.0	1.18	40.0	5.5	7	10.0	1	18	5	22.0	孝左衛門	
よ又3	54.5	5.0	9	2.5	1.24	54.5	5.0	9	2.5	1	24	7	8.5	孝左衛門	
よ4	34.5	5.0	5	22.5	1.06	35.0	5.0	5	25.0	1	6	4	19.0	孝左衛門	
よ又4	53.0	5.0	8	25.0	1.24	54.0	5.0	9	0.0	1	24	7	6.0	孝左衛門	
よ5	29.0	5.0	4	25.0	1.00	29.0	5.0	4	25.0	1	0	3	25.0	孝左衛門	
よ又5	53.0	5.0	8	25.0	1.24	53.0	5.0	8	25.0	1	24	7	1.0	孝左衛門	
た一	23.0	5.0	3	25.0	0.24	23.0	5.0	3	25.0	0	24	3	1.0	武左衛門	
た又一	54.0	5.0	9	0.0	1.24	54.0	5.0	9	0.0	1	24	7	6.0	武左衛門	
た二	66.5	5.0	11	2.5	2.06	69.0	5.0	11	15.0	2	6	9	9.0	武左衛門	
た三	62.0	5.5	11	11.0	2.06	62.0	5.5	11	11.0	2	6	9	5.0	武左衛門	
た四	55.0	5.5	10	2.5	2.00	55.0	5.5	10	2.5	2	0	8	2.5	武左衛門	
た五	52.0	5.5	9	16.0	1.24	51.0	5.5	9	10.5	1	24	7	16.5	武左衛門	

	「文政十二年 児島郡味野村 新開塩浜願上帳」					「文政十二年九月 児島郡味野村 新開塩浜検地帳」					「文政三年 開方田畑塩浜 畝名寄帳 児島郡味野村」				
	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝歩	縦 (間)	横 (間)	面積		穴床敷 畝歩	面積		所持者		
			畝	歩				畝	歩		畝	歩			
た六						45.0	5.5	8	7.5	1	18	6	19.5	武左衛門	
た七						37.0	5.5	6	23.5	1	12	5	11.5	武左衛門	
た八						30.0	5.0	5	0.0	1	0	4	0.0	武左衛門	
た九						22.0	5.0	3	20.0	0	24	2	26.0	武左衛門	
た十						17.0	4.5	2	16.5	0	18	1	28.5	武左衛門	
た十一						17.0	3.0	1	21.0	0	3	1	18.0	武左衛門	

「文政三年 開方田畑塩浜畝名寄帳 児島郡味野村」

「文政十二年九月 児島郡味野村新開塩浜検地帳」

「文政十二年 児島郡味野村新開塩浜願上帳」

岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

また「児島郡味野村新開塩浜検地帳」を参照すると、塩浜面積と穴床敷の面積を加算したのが塩田一区画の面積となる。ちなみに、「児島郡味野村新開願上帳」では土地所持者の予定は全て武左衛門となっている。これは「味野村新開塩浜検地帳」でも変わらない。ただ、文政三年以降開発や土地改良などで土地の面積や土質、起こし返しなどで所持者の変化を記載した「文政三年開方田畑塩浜畝名寄帳」を参照すると、善三郎を含め、又七、徳次郎、喜介、孝左衛門そして赤崎村伊八の名前が記載されている（【表14】）。実際の開発では武左衛門以外の人も関わっていたことが判明する。開発し、検地が行われた後、すぐに分けられたのであろう。

「文政三年開方田畑塩浜畝名寄帳」に記載されている個々の塩田面積は「味野村新開塩浜検地帳」に記載されている穴床敷の面積と塩田面積を加算した面積となっている。要するに検地帳の面積と同一ということである。この区画を基礎に単位当たりの塩田となっていたということなのだろう。

なお、野崎浜について述べると、塩浜としては一筆当りの面積は狭く穴床敷（沼井）一つが単位となっている。いわば百姓浜といわれる零細な塩田であったが、所持地自体は隣接していたということになる。なお、味野村ではその後も塩浜は開発されるものの、塩浜（単位当たり作業面積）が着実に拡大されていったかというともうそうでもないようである。

天保10年にも味野村では塩浜が3反4畝弱が開発され「塩浜検地帳」が作

近世における備前児島の製塩業

【表 15】 天保 10 年味野村塩浜検地

所持者	間	間	面積		穴床敷	
			畝	歩	畝	歩
浅蔵	38	3.5	4	13.0	1	24
重右衛門	38	3.5	4	13.0	1	18
重右衛門	39	3.5	4	16.5	1	18
重右衛門	39	3.5	4	16.5	1	18
徳次郎	38	4	5	2.0	1	24
重右衛門	34	2	2	8.0	1	0
徳次郎	32	3	3	6.0	1	3
浅蔵	32	3	3	6.0	1	3
重右衛門	34	2	2	8.0	1	0
		合計	3反3畝	29歩		

天保10年8月 「児島郡味野村塩浜検地帳」

岡山大学附属図書館所蔵児島家文書

【表 16】 天保 12 年 4 月の塩浜から田畑への転換

【表 16-1】 塩浜の内、田へ直し

元	直し	畝	歩	
下浜	下田	2	20.0	孝左衛門
下浜	下田	2	19.5	宗吉
下浜	下田	2	20.0	喜介
下浜	下田	1	14.0	儀兵衛
下浜	下田	0	26.0	芳右衛門
下浜	下田	8	3.5	松太郎
下浜	下田	4	9.0	和右衛門
下浜	下田	4	9.0	改次郎
下浜	下田	7	1.5	孝左衛門
下浜	下田	2	0.0	清蔵
下浜	下田	2	0.0	沢次郎
下浜	下田	3	24.0	沢次郎
下浜	下田	4	5.5	沢次郎
下浜	下田	0	24.0	幸次郎
下浜	下田	2	22.0	幸次郎
下浜	下田	2	0.0	伝介
	合計	5反1畝	18歩	

元	直し	畝	歩	
下浜	下々畑	1	17.5	弁吉
下浜	下々畑	1	23.0	直次郎
下浜	下々畑	0	10.0	喜介
下浜	下々畑	1	0.0	善三郎
下浜	下々畑	1	6.0	忠次郎
下浜	下々畑	3	0.0	十平
下浜	下々畑	0	20.0	儀四郎
下浜	下々畑	0	20.0	政次郎
下浜	下々畑	0	5.0	忠四郎
下浜	下々畑	0	5.0	忠四郎
下浜	下々畑	0	11.0	忠四郎
下浜	下々畑	1	0.0	伝介
下浜	下々畑	3	0.0	喜介
下浜	下々畑	0	10.0	喜介
下浜	下々畑	0	25.0	喜介
下浜	下々畑	0	3.0	伴之丞
下浜	下々畑	0	20.0	善三郎
下浜	下々畑	1	19.0	善三郎
下浜	下々畑	0	6.0	梅左衛門
下浜	下々畑	0	4.0	吉左衛門
下浜	下々畑	2	29.5	喜介
	合計	2反9畝	15歩半	

【表 16-2】 塩浜の内、畑へ直し

元	直し	畝	歩	
下浜	下々畑	3	22.0	政次郎
下浜	下々畑	1	22.5	庄介
下浜	下々畑	1	25.0	久米蔵

「児島郡味野村塩浜之内田畑直改帳」（岡山大学附属図書館所蔵児島家文書） 参照

成されている（【表15】）。この時の所持者は重右衛門（1反8畝2歩）、徳次郎（8畝8歩）、浅蔵（7畝19歩）の三人で、武左衛門は関係していない。

また、天保12年（1841）には味野村組頭嘉惣治は「塩浜畝数八反壱畝三歩半悪水抜溝川近ニ御座候故、真水指出塩付悪敷浜業相成不申、捨置候而ハ荒浜ニ相成可申・・・」と、真水が多く入ってくるため塩付が悪いとし、塩浜8反1畝3歩半について、田（5反1畝18歩）、畑（2反9畝15歩半）にすることを願い出ている<sup>29)</sup>。これはすぐに受け入れられたようで、4月にはそれぞれ田畑として「児島郡味野村塩浜之内田畑直改帳」が作成されている<sup>30)</sup>。【表16】がそれだが、これを参照しても、所持者として武左衛門は登場していない。

## おわりに

以上、近世における備前児島郡の塩浜の様子について土地関係史料から明らかにしてきた。備前国の塩浜は一区画当たりの面積は零細で、しかも近世を通じて統廃合することはなかった。つまり、竹原塩田や赤穂塩田などのように塩田一区画に釜屋や浜子小屋などを装備した一軒前が成立していたわけではなく、少なくとも近世後期までは百姓浜として存在した。また、味野村においては、塩浜だけを所持しているような村民はおらず、製塩業は半農半塩の副業であったといえるだろう。本論で明らかにしたかかの内容は、これまでも指摘されてきた内容を「検地帳」「名寄帳」などで具体的に明らかにしたにすぎない。ただし、塩浜の開発過程を明らかにする中で、野崎浜の開発以前に溝台鉢から床穴敷へ、また真水が溜まらないような用水と悪水が分流する塩浜が開発されるなど、開発技術が向上されている様子が判明する。これらの技術を前提として野崎浜の開発が行われたのであろう。

また、これを前提としながらも二つの点を展望しておこう。一つは、一般に零細な塩浜は、地元で販売された（地域市場）を対象としている印象があるが、備前塩は大坂へも送られていた。すなわち、『大阪商業史資料』の「塩商」の項に「塩商 塩ノ産地ハ讃岐・備前・播磨等ヲ最多シトス、就中讃岐ハ品位良ク且ツ産出モ頗ル多シ、然レトモ播磨ノ赤穂ハ天然ノ上品ニシテ製塩中尤モ

著名ナルモノナリ、其八家・的方等ノ如キハ之ニ亞クモノトス、而シテ備前ノ産ハ尤モ下位ニ居レリ其他伊予・安芸・備後等ヨリモ産出スレトモ大坂地方來鬻スルコト甚稀ナリトス」とされ<sup>31)</sup>、大坂市場へも売られていた。つまり半農半塩で生産力は低位であることで、質的にも必ずしも良質とはいえないが、近世前期から大坂を販路にしていたという事実は重要である。

また、同時に『撮要録』が作成された文政6年(1823)ごろの児島郡の塩浜面積は62町9反2畝18歩だったが、明治12年(1879)には357町8反3畝8歩になっているように、児島郡内の塩浜の面積が5倍以上に拡大している。これには野崎浜の開発が大きな画期をなしたといえるが、開発当初の野崎浜は15町歩、東野崎浜は27町歩であり、地租改正時では野崎浜は49町歩、東野崎浜は74町歩であり、明治12年(1879)の段階で野崎浜(味野村・赤崎村)で81町歩、東野崎浜が69町3反歩と拡大しているが、それらを上回る塩田開発が児島郡各地でなされたことがわかる。特定地域で塩田開発されることで隣接する塩田が衰退するのではなく、相乗的に塩田開発されていたことは注目することができるだろう。

また、「検地帳」「名寄帳」などを参照すると、児島郡内の塩浜はほとんどが下浜か下々浜に属している。この点は、塩浜の地場が悪いことが理由なのか、年貢(運上)高を低く抑えるためなのかはわからない。こうした点も今後の課題である。

#### 【註】

- 1) 「萩野家文書解説」岡山大学附属図書館編『岡山大学所蔵近世庶民史料目録 第3巻』(1974年)。
- 2) 「山陽新報 昭和4年9月8日」。本記事の冒頭には「味野町は富豪野崎家をもつ事に於て町の財政は非常に豊であり、諸種の設備は至らざるなき迄に完備してゐる。全町の戸数割の半額は野崎家を出してゐる一事を以てしても同家が町の全勢力である事が判る。」と記載されている。
- 3) 農商務省農務局調査「五十町歩以上ノ大地主」大正13年、『大正昭和日本全国資産家地主資料集成I』(1985年)、昭和7年の「全国多額納税者名簿」を参照すると、岡山県下では野崎丹斐太郎が4万4258円で次の大原平右衛門の8616円の約5倍近い納税額であった(「多額納税者名簿(昭和7年)」『大正昭和日本全国資産家地主

- 資料集成Ⅳ』1985年) ちなみに、この納税額は全国的にみても7番目である。
- 4) ナイカイ塩業株式会社社史編纂委員会編『野崎家の研究』(1981年)。
  - 5) 落合功『近世瀬戸内塩業史の研究』(2010年、校倉書房)。
  - 6) 楳西光速「坂出塩田開墾事情」(『日本塩業の研究』第七集、1964年)。同論では坂出塩田の特徴として、「海水の注入口と悪水の排出口とを夫々別ち、注入排出共に完全であった」点が指摘され、その潮取揺または揺と称する注入口、水門または水閘と称する昇降樋の排出口が久米栄左衛門によって設置されていることを明らかにしている。他に落合功「地域を担うリーダー—久米栄左衛門の思想と行動—」(『地域社会とリーダーたち』2006年、吉川弘文館)
  - 7) 岡光夫「瀬戸内十州の入浜給塩田の構造」(『日本塩業のあゆみ』1982年、国書刊行会)。同書によると、坂出塩田について「築造法は赤穂と、三田尻の長所を併せ、「久米式」といわれるもので、両浜の中央に十字形の溝渠を通じて分画し、海水注入口と排水溜及排水閘を分離した点が注目される。これが同一である「中期入浜」塩田の赤穂や竹原の初期は、すでにみたように、雨後塩田内に溜った雨水の排水が不十分で、直ちに作業に着手することができず、そのため採鹹作業日数を減じ、生産量にも影響を与えたのである。また排水溜の規模が適切で欠くと、悪水の排除が十分とならないのであるが、坂出においてはそれが完璧であり、これが坂出をして高い生産力を維持せしめた要因である。」と、紹介している。
  - 8) 岡山大学附属図書館所蔵荻野家文書。なお、本論文中注記の無いものは全て荻野家文書である。岡山大学附属図書館には荻野家文書閲覧に当り多くの御支援を賜った。
  - 9) 「児島郡村々之事」『備陽記』(1965年、日本文教出版株式会社)
  - 10) 「村落・児島郡」『吉備群書集成』(1970年、歴史図書社)
  - 11) 「児島郡塩田之部」「壱田塩田之部」『撮要録』(日本文教出版株式会社、1965年)
  - 12) 「岡山県統計書(明治12年)」
  - 13) 「味野村」『備陽記』(1965年、日本文教出版株式会社)
  - 14) 「寛文五年 児島郡味野村田帳」「寛文五年 児島郡味野村畠帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 15) 「寛文四年 児島郡味野村塩浜帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 16) 「寛文八年 児島郡味野村新開塩浜改帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 17) 「寛文九年 塩浜新田開方改之帳」「寛文十二年 児島郡味野村新開新浜改帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 18) 「元禄三年十一月十五日 児島郡味野村発開改帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 19) 「田井村塩浜」(『撮要録』日本文教出版株式会社、1965年)
  - 20) 「元文三年 児島郡味野村田畑高物成開方新々開共名寄指引算用帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
  - 21) 「寛政十一年未十月 開方田畑塩浜畝名寄帳」「文政三年十月 田畑塩浜畝名寄帳」「文政三年十月 開方田畑塩浜畝名寄帳」いずれも岡山大学附属図書館所蔵児

## 近世における備前児島の製塩業

島家文書。

- 22) 「田井村塩浜開」(『撮要録』日本文教出版株式会社、1965年)
- 23) 「塩田の開発」(『野崎家の研究』1981年)
- 24) 「味野村赤崎村地先新開一条手続書」(日本塩業大系編集委員会『日本塩業大系史料編 近世(一)』1975年)
- 25) 「味野村赤崎村塩浜」(『撮要録』日本文教出版株式会社、1965年)
- 26) 『野崎家の研究』(1981年)
- 27) 『野崎家の研究』(1981年)
- 29) 「味野村塩浜田畑転用願書(天保十二年)」(『日本塩業大系 史料編 近世(一)』1975年)
- 30) 「児島郡味野村塩浜之内田畑直改帳」(岡山大学附属図書館所蔵児島家文書)
- 31) 大阪商工会議所編『大阪商業史資料』(第29巻、1964年)

本論に関する児島家文書は岡山大学附属図書館に所蔵している。同史料の閲覧に際し、岡山大学図書館に多くの御支援をいただいた。深甚より謝意を申し上げる。

本論文は科学研究費基盤研究(B)「巨大塩田地主野崎家史料の総合的研究(研究代表者 飯塚一幸)」(19H01309)の成果の一部です。